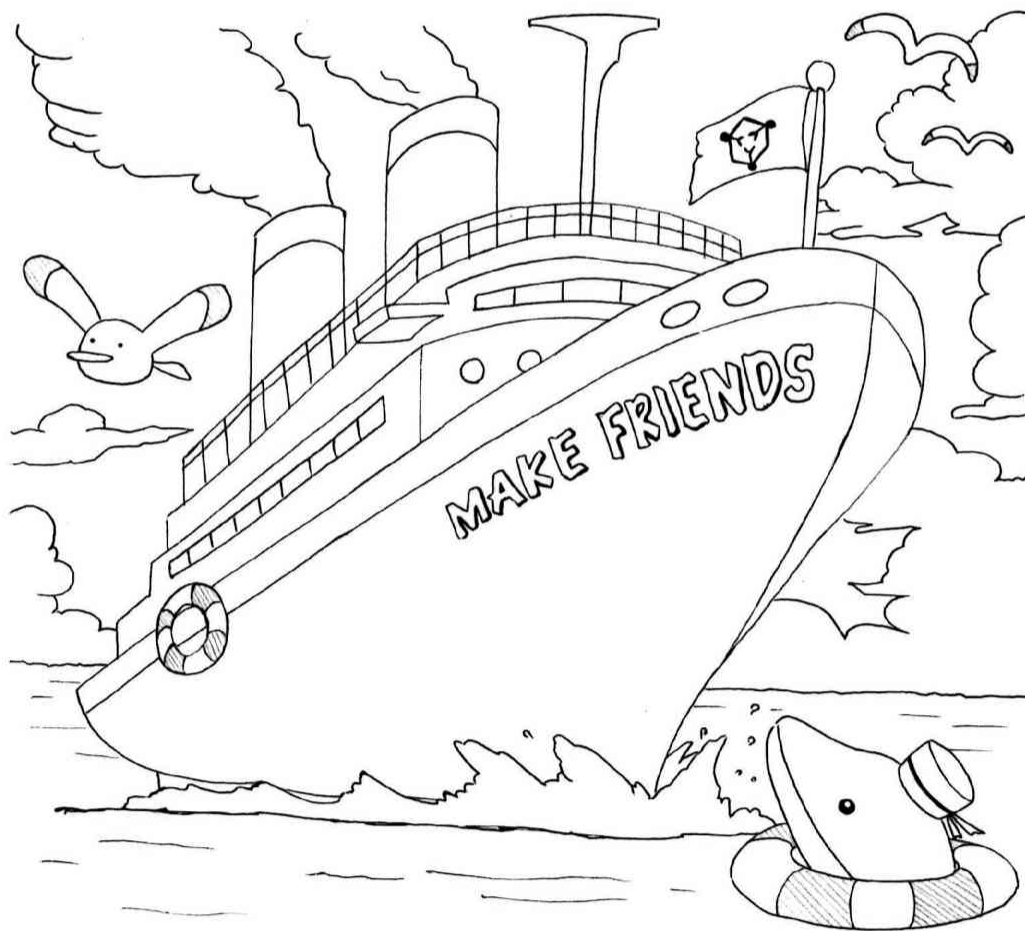


2015（平成27）年度  
熊本大学教育学部フレンドシップ事業

実施・成果報告書



熊本大学教育学部  
附属教育実践総合センター

2016（平成28）年3月

# 目 次

## はじめに

- 1 平成27年度熊本大学教育学部フレンドシップ事業シンポジウム・分科会 挨拶  
..... 熊本大学教育学部長 登 田 龍 彦 1
- 2 「生きる力」のはぐくみは、「真の体験」活動から生まれる  
..... 教育実践総合センター長 古 賀 倫 嗣 2

## I メイクフレンズ活動の実施報告

- 1 メイクフレンズについて ..... 3
- 2 2015（平成27）年度メイクフレンズ活動体系について  
..... 熊本大学教育学部2年 高 田 知 佳 5
- 資料 2015年度熊本大学メイクフレンズ学生名簿 ..... 7
- 3 2015年度メイクフレンズ年間活動一覧 ..... 9
- 4 2015年度メイクフレンズ外部依頼による活動一覧 ..... 11
- 5 2015年度活動報告 ..... 12
- （1）メイクフレンズ「五福ホール班」活動報告書
- （2）メイクフレンズ「中央プランナー班」活動報告書
- （3）メイクフレンズ「託麻単発班」活動報告書
- （4）メイクフレンズ「大江単発班」活動報告書
- 6 2015年度熊本大学教育学部フレンドシップ事業シンポジウム・分科会開催要項 ..... 28

## II 分科会の実施報告

- 1 メイクフレンズ学生自主企画分科会 ..... 33
- 2 実施計画 ..... 34
- 3 合同分科会の事後アンケート結果 ..... 60

## III 教育実践総合センター教員からのメッセージ

- 1 子どもと寄り添う姿勢、大人に謙虚な姿勢  
..... 教育実践総合センター教授 中 山 玄 三 65
- 2 実況中継：ワクワク・シンポジウム（2015年度）  
..... 教育実践総合センターシニア教授 吉 田 道 雄 66
- 3 平成27年度フレンドシップ事業シンポジウムに参加して思うこと  
..... 教育実践総合センター特任教授 長 濱 茂 喜 67
- 4 メイクフレンズ活動を支えているもの  
..... 教育実践総合センター客員教授 杉 原 哲 郎 68

## 平成27年度熊本大学教育学部 フレンドシップ事業シンポジウム・分科会 挨拶

熊本大学教育学部長 登 田 龍 彦



皆様、こんにちは。教育学部長の登田でございます。平成27年度熊本大学教育学部フレンドシップ事業シンポジウム・分科会の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、熊本県・熊本市の社会教育機関の先生方におかれましては、お忙しい中ご出席いただきまして、誠に有り難うございます。本事業は、教師を目指す学生が、子どもたちとのふれあいを通して、子どもたちの気持ちや行動を理解し、豊かなコミュニケーション力と実践的指導力を身につけることを目的とする教育的活動です。中央教育審議会から平成24年8月28日に答申された「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」の中で謳われております教員に求められる資質能力の一つに、「総合的な人間力（豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力）」があります。これまで本学部が重視してきた体験型活動であるフレンドシップ事業は、正にこの教育体験そのものであり、「総合的な人間力」の修得において大きな役割を担っています。

本事業を支えるものとして、1年生を含めた約80名のサークル「Make Friends」が存在し、熊本市内の五福、中央、託麻、大江の4公民館の社会教育施設や熊本県生涯学習推進センター、熊本市役所生涯学習推進課と連携・協力しながら、子どもが参加する行事等の企画・運営が積極的に行われ、その活動報告が楽しみです。また、午前の分科会は、「高め合い」をテーマにして、討議がなされたそうですが、活発なものであったと推察いたします。今後益々、地域の教育機関と連携を強化させて頂きながら、本事業を拡充・深化させて行く必要があると思われます。

本日は、公民館から中川先生、江川先生、赤木先生、連携協力機関から熊本県生涯学習推進センター審議員の秋山先生と熊本市市民局生涯学習推進課社会教育主事の川口先生に、今年度の活動に対するコメントを頂戴することになっております。また、本日は、熊本県教育庁社会教育課長の河村雅之先生に特別講演をして頂くことになっております。心より感謝申し上げます。宜しく御願い致します。

最後に、本日まで出席頂きました先生方には、フレンドシップ事業の発展のために、これまでご尽力いただきましたことに対し、厚くお礼を申し上げ、併せて今後とも変らぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。本日のシンポジウム・分科会が有意義なものになりますことを祈念致しまして、挨拶とさせていただきます。

# 「生きる力」のはぐくみは、「真の体験」活動から生まれる

教育実践総合センター長 古賀倫嗣



平成8年、中央教育審議会は、「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について（答申）」を公表、「生きる力」を学校教育における最高の理念として提案しました。これを受け、平成11年の生涯学習審議会は、「生活体験・自然体験が日本の子どもの心をはぐくむ（答申）」を公表、子どもたちの体験を充実させるための地域の取組として、「地域の体験を通して試行錯誤していくプロセスが子どもを育てる」「子どもたちに様々な体験の機会を意図的・計画的に提供していく」「子どもたちをプログラムの企画段階から参画させるような取組により自主性を引き出す」

等の提言を行いました。

平成9年度に始まったフレンドシップ事業は、熊本市の公民館と連携・協働し多様な体験事業を「意図的・計画的に」提供し続け、平成27年度で19年目を迎えました。本日の事例発表で紹介された取組は、「グループ活動」「会議のコツ」「試行錯誤」という3つのキーワードでまとめることができそうです。そして、それを総括する言葉が、参加学生（クルー）自身から発信された「仲間と協力して困難を乗り越える」という重要な課題だと思います。「生活体験」事業に、30年以上理論的・実践的に取り組んできた私にとって、皆様から指摘されたこの課題の重みはあらためてかみしめたい事項です。

フレンドシップ活動に関して、これからの参考になるかと思い、尊敬する正平辰男先生（福岡県（旧）庄内町立生活体験学校指導者）の、次の文言を贈りたいと思います。

「真の体験といえるものは、課題に基づいて子ども自身による見通しが立てられていなければならない。そして、課題解決の過程を通じてその意義や有効性が体得されなければならない。」「子どもが立てる見通しは欠落部分や錯誤がある。その欠落部分や錯誤を実践によって修正させていく作業の過程が意味のある体験となる。」

この言葉を、「生きる力」をはぐくむ教育実践の指針と、私は考えています。



## I. メイクフレンズ活動の実施報告

### メイクフレンズについて

全国国立大学教育学部において文部科学省が推進しているフレンドシップ事業は、さまざまな体験活動を子どもたちと学生がともに行い、ふれあう中で学生が子どもたちの気持ちや行動を理解し、実践的な指導力の基礎を身につけることをねらいとしています。

メイクフレンズは、このフレンドシップ事業の一環として行われた、熊本大学教育学部の授業から発展した学生主体の活動です。メイクフレンズでは、学生である私たちが活動を企画し、そしてその活動を実践したり、そこでの体験を振り返り見直したりすることによって、「子どもを見る目」及び「子どもの考えや行動を予測した企画」のレベルを向上させることを目的としています。現在、活動の場として、中央公民館、五福公民館、託麻公民館、大江公民館などの社会教育施設にご協力いただき、企画・運営を含めた大学外での体験活動を行っています。





## 2015（平成27）年度メイクフレンズ活動体系について

熊本大学教育学部2年 高田 知 佳

本年度は熊本市の4つの公民館と提携させていただき、4班構成で活動を行ってきた。前年度の流れを引き継ぎ、年間を通して特定の子どもたちと共に活動の企画・運営をするプランナー班、学生が主体となって企画・活動をする単発、ホール班として活動を行った。

「フレンドシップ事業」の「シップ（船）」に由来しているメイクフレンズでは、所属している学生を「船員（クルー）」、幹部を「船長」「副船長」と呼び、シンボルには「船」が用いられる。現在メイクフレンズには80名弱の学生が所属しており、教育学部以外にも少数ではあるが文学部や工学部の学生も在籍している。また、本年度は方針に「視野を広げる」というものを掲げた。同じサークルに所属しているとはいえ、考えや価値観はひとりひとり異なり、時にはぶつかり合うこともある。しかし自分が持たない意見にふれることは、今まで持っていた自分の考え方の幅を広げる重要な機会であると再認識をし、この方針を立てた。メイクフレンズに所属しているからこそ経験できる、貴重な企画・活動はもちろんのこと、普段の生活における先輩や後輩、仲間など様々な人とののかかわりの中で、今後の人生の財産となる広い視野を「船員（クルー）」全員が獲得できるよう取り組んでいく。

メイクフレンズは来年度で17年目を迎える。本年度も公民館を始め、様々な場所でのキャンプや風流街ロマンフェスタ、子ども会でのレクリエーションの実施など、外部の方から多くの依頼を頂いた。様々な人との関わりに支えられているこの活動と組織を誇りに思うとともに、メイクフレンズのさらなる発展・充実のため、来年度も新たな挑戦をしていく。

最後になりましたが、本年度も公民館の先生方をはじめ、市や県の先生方、そして中山先生、長濱先生、杉原先生をはじめとする教育学部の先生方には、多大なご理解とご支援をいただきました。私たち学生は多くの方々に支えられて、メイクフレンズという場で貴重な経験ができています。心から感謝申し上げます。これからもご理解とご支援をよろしくお願いいたします。



## 「視野を広げる」

### ○方針とは

我々2年生は、方針とは、「課題解決をするために実施していくことを示すもの」、また、あえて方針として言葉にすることで、「ひとりひとりの意識に働きかけ、行動に変化をもたらすきっかけになるもの」でもあると捉えた。

2年生で話し合っていくなかで、学生間の意見の交流、なかでも特に異なる班に所属している学生間の意見交流が少ないことがメイフレの課題として挙がってきた。そこで我々2年生は、このことをメイフレの現状の課題として方針を考えることとした。

### ○「視野を広げる」とは？

現在メイフレには、様々な考え方や個性を持つ多くの学生が所属している。しかし、同じメイフレというサークルに所属していても、異なる班に所属している学生の考え方にふれ、さらにその意見を自分のなかで考える機会はあまり多くないのではないだろうか。我々2年生は、この現状について、多くの人が同じサークルに所属しているというメイフレの特徴を活かしきれていない、もったいない状況ではないかと考えた。サークル内の多くの人の考え方にふれ、自分の引き出しを増やしていくことを通して、ひとりひとりがより成長を感じることができるサークルになればと思っている。そこで今年度は、「視野を広げる」という方針を立てることとした。

また、この方針の中には、人の考え方にふれるだけではなく、ぜひその考え方を一度受け止め、考えてみてほしい、という願いも込めている。この、人の意見に対し考えようとする姿勢は、現在船員全員が全く出来ていないというわけではない。しかし、様々な人と交流していく中で、異なる班に所属している人と意見交換をするときや、班で話し合いをするとき、どちらにおいても変わらず、この姿勢をより大切にしてもらえればと思う。意見を受容される雰囲気のある話し合いには、安心感が生まれる。また、そのように安心感のある雰囲気のなかであれば、よりよい意見交流が実現し、船員の視野もさらに広がっていくのではないだろうか。

### ○方針の先にあるもの

今年度立てた方針は、船員ひとりひとりが意識をしないと達成に向かえないものである。多くの人とつながることで自らの視野を広げ、引き出しを増やしていくこと。このことを意識してもらえれば、その先にそれぞれが求めようとすることは自由である。そのように、それぞれが求めることが多様なサークルだからこそ、多様な意見が生まれ、船員の視野はさらに大きく広がっていくのではないだろうか。

ただし、メイフレの中には「子ども理解」が中心にあることは忘れないでいてほしい。なぜなら、「子ども理解」はメイフレを語る上で大前提となるものだからである。「子ども理解」を前提としたうえで、今回2年生が立てた方針を船員一人ひとりに意識してもらえればと思う。

## 2015年度 メイクフレンズ年間活動一覧

月	日	五福ホール	大江単発	託麻単発	中央プランナー
6	6 (土)				開講式
	13 (土)	Let's おしごと！ ～はたらくの たのしいんだからあ～			
	14 (日)			はじめてのおかいもの ～みんなのパワーでご飯を 変身させようの巻～	
	20 (土)				プランナー合宿
	21 (日)				
	27 (土)				プランナー会議①
7	28 (日)		進め！大江音楽隊 ～つくってワクワクならして ドキドキ～		
	4 (土)				プランナー会議②
	11 (土)	ちぎってあそぼ			
	25 (土)				プランナー会議③
	1 (土)				プレ
8	8 (土)	つくってとぼそ！ ～夏の空に Fly away～			
	9 (日)		てくまち探検キラキラサマー		アツい！ 中央あそびフェスティバル！
	29 (土)				プランナー会議④
	30 (日)			皆で作ろうピタゴランド ～ピタ子とゴラ男の大冒険～	

月	日	五福ホール	大江単発	託麻単発	中央プランナー
9	12(土)	五福大運動会 ～負けられない 戦いがここにある～			プランナー会議⑤
	26(土)				プランナー会議⑥
10	10(土)	Let's ボディペインティング! ～失われた色をとりもどせ～			プレ
	18(日)				熊大ウォークラリー
	31(土)				プランナー会議⑦
11	8(土)	風流街ロマンフェスタ			
	15(日)				プランナー会議⑧
	22(日)			はじめてのお買い物 ～ビックなバーガーを 作ろうぜ!～	
	29(日)				プランナー会議⑨
12	12(土)	手作りスマス ～クリスマスが 今年もやってくる～			プレ
	20(日)		ガラスの中に世界を作れ! ～君だけのスノードーム～		クリスマスパーティー
	16(土)	みんなでカルタ			
1	24(日)			とびだせ託麻! GO! GO! みんなの大運動会!	
	30(土)				閉講式
2	13(土)	何が出るかな? ～すごろくアドベンチャー～	大江探偵団 ～この謎が君に解けるか?～		



## 2015年度 メイクフレンズ外部依頼による活動一覧

月	日	依頼主	活動内容	活動場所
4	4	尾ノ上5町内子ども会	新入生歓迎会	灰塚集会所
	11	白藤ニュータウン子ども会	新入生歓迎会	白藤ニュータウン公民館
	18	くまもと森都心プラザ	かがくあそび	くまもと森都心プラザ
	19	託麻南3町内子ども会	新入生歓迎会	託麻南小学校体育館
	19	託麻東4町内子ども会	新入生歓迎会	戸島4町内公民館
	26	田迎南3町内子ども会	新入生歓迎会	田迎南小学校
5	9	田迎南2町内子ども会	新入生歓迎会	田迎南地域 コミュニティーセンター
	9	桜木2町内子ども会	新入生歓迎会	桜木小学校体育館
	10	長嶺校区8町内子ども会	新入生歓迎会	長嶺小学校体育館
	10	楠3.5町内子ども会	新入生歓迎会	楠小学校体育館
	10	大江小学校 16町内子ども会	新入生歓迎会	大江公民館ホール
	10	東部公民館	新入生歓迎会	山ノ内小学校体育館
	10	黒髪18町内子ども会	新入生歓迎会	竜南中学校体育館
	24	田迎南小学校 1町内子ども会	新入生歓迎会	田迎小学校体育館
	24	楠2町内子ども会	新入生歓迎会	楠小学校体育館
	31	健軍校区1町内子ども会	新入生歓迎会	健軍小学校体育館
7	20	東部公民館	6年生親睦会	山ノ内小学校体育館
	26	東部公民館	東部子どもフェスタ	東部公民館
8		合志市教育委員会	合志市小中学校 サマースクール	合志市小中学校
9	19～21	熊本市キャンプ協会	阿蘇大観峰チャレンジキャン プ	あそ教育キャンプ場
10 11	31～1	熊本市小学校少年育成課	熊本城わくわく体験学習	熊本城
12	19	託麻西小学校区 4町内子ども会	クリスマス会	託麻西小学校体育館
1	17	天明公民館	南区子どもチャレンジ プランナー活動	アクアドーム

## 2015年度 前期五福ホール班 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 鮫 島 優美子

前期五福ホール班は、「子どもたち一人ひとりに、その子なりの楽しさを見つけてもらい、“また次来たい”と思える活動を作る」という方針をかかげ、活動の企画・運営を行った。活動は、お仕事体験、ちぎり絵、紙飛行機、運動会の全4回行った。その中でも、特に印象に残った9月の活動について報告する。

9月の「五福大運動会！～負けられない戦いがここにある～」では、子どもたちに協力・団結して勝利を目指してもらうことを目的として企画を行った。まず、レクリエーションで団を分け、開会式を行った。次に、障害物競走、台風の目、綱引きの3競技を行い、最後に、優勝旗と参加者全員へのメダルの授与を行った。この活動では、競技の選択、作戦タイムの時間、学生の声掛けなど、子どもが自然と協力・団結できるような環境づくりに力を入れた。また、はじめて会った子同士が抵抗なく関われるよう、障害物競走の2人組での風船運びに始まり、4人組の台風の目、最後は団全体での綱引きへと、関わる人数を段階的に増やしていった。その結果、各競技に真剣なまなざしで取り組む姿や、仲間と一喜一憂する姿、応援する姿などを見ることができた。このように、私たちが事前には想像できなかったほどの盛り上がりを見せ、子どもたちの一生懸命な姿がとても印象に残る活動となった。

ホール班の活動には、1年生から6年生、障がいをもった子など、様々な子どもが来てくれる。その企画は容易なことではないが、班員で意見を交わしながら作っていく。また、当日の学生の臨機応変な対応も、子ども一人ひとりを楽しませられるかに大きく関わってくる。そのため、毎回の活動の振り返りでは、エピソードの共有を行い、次の活動にいかせるようにしている。今後も、90分間という短い活動の中で、いかに来てくれた子一人ひとりを楽しませられるかを、毎回の活動で得られる貴重な経験や学びを大切にしながら、考えつづけていきたい。



## 2015年度 後期五福ホール班 活動報告書

〈後期を振り返って〉

班長 2年 青 崎 勇太郎

後期五福ホールでは、前期の方針を引き継ぎ10月に「Let's ボディペインティング～失われた色を取り戻せ～」、12月に「手作りスマス～クリスマスは今年もやってくる～」、1月に「みんなでカルタ!」、2月に「何が出るかな? すごろくアドベンチャー」の全4回の活動を行った。また、11月には、毎年五福校区で行われる「風流街浪漫フェスタ」にもボランティアとして参加させていただいた。

ここでは、2月の活動である「何が出るかな? すごろくアドベンチャー」の活動を報告する。この活動は「チーム一体となって、すごろくを楽しもう」という目的で企画を行った。まず、レクでチームを分け、チームの中でアイスブレイクをして、チーム対抗のすごろくを行った。その中で、うれしいや悔しいといった感情をチームで共有できるような支援を行った。具体的には、すごろくのコマやマスを設置を工夫した。コマはチームに1つずつ用意した。すごろくをする前に、自分の名前を書いた旗を自チームのコマに指すことで、初めて会った子同士でもチームの意識が出るようにした。また、すごろくのマスの中に、チーム対抗でゲームをするマスを取り入れた。この支援で、自然と協力しあう姿や、チームみんなで喜びあったり悔しがったりする姿を見ることが出来た。さらに、今回はみんなですごろくを楽しめたことによって、ホールの中で一体感が生まれ、みんなの居場所となっていた。

今年度のホール班ではグループ活動を多く取り入れた。学年も違う様々な子が来るホール班では、グループ活動は難しいとされてきた。しかし、今年度は、活動に遅れてきた子やグループに入りたくない子への支援を充実させること、学生が子供と直接関わるだけでなく子ども同士が関われるように促す声掛けをすることで、グループ活動を有意義なものとする事ができたと思う。このような貴重な体験を、毎回の活動へと活かせるように、これからも努力していきたい。



# 2015年度 五福ホール班

前期班長 鮫島優美子  
後期班長 青崎勇太郎

## 活動一覧

活動月	活動名
6月	Let's お仕事体験～はたらくのたのしいんだからあ～
7月	ちぎってあそぼ
8月	つくってとぼそ～夏の空にFly away～
9月	五福大運動会～負けられないたのしいなここにある～
10月	Let's ボディペインティング～失われた色をとりもどせ～
11月	風流街ロマンフェスタ
12月	手作りスマス～クリスマスが今年もやってくる～
1月	みんなでカルタ
2月	何が出るかな？～すごろくアドベンチャー～

## ホール班方針

その子なりの楽しさを見つけてもらい、  
“また次来たい！”と思える活動を企画しよう

小学1～6年生  
初めて来てくれる子  
いつも来てくれている子  
特別な支援が必要な子



居場所 づくり

## 今年度力を入れた取り組み

### グループ活動

前期：7月（ちぎり絵）、9月（運動会）  
後期：1月（カルタ）、2月（すごろく）

学生と子どもの関わり



居場所



子ども同士の関わり

## 2月の活動について

『何が出るかな？～すごろくアドベンチャー～』

○目的 「チーム一体となってすごろくを楽しもう。」



感情の共有 { ・嬉しい  
・悔しい etc...

## 2月の活動について

○チーム意識を持たせるための主な支援

導入での班活動 … 自己紹介、コマづくり



## 2月の活動について

### ○チームの仲を深めるための主な支援

ミッション … 風船リレー、フラフープリレー等



## グループ活動の成果

☆子ども同士が関わる機会の増加  
→活動にまた来たい！

☆グループに入ることが苦手な子への  
支援の重要性

前もって準備していた  
小さなすごろく



## 1年間を振り返って

- ・グループ活動によって、活動の幅が広がり、子どもたちがより楽しめる居場所を提供できた。
- ・学生が子ども同士をつなげるような働きかけを行ったり、子どもに寄り添ったりする大切さも感じた。

ご清聴ありがとうございました



## 2015年度 前期中央プランナー班 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 反 後 克 彬

中央プランナー班は年間を通して『思いやり』と『仲良し』の2つを柱とし、小学3～5年生のプランナー8名と一緒に活動を行ってきた。

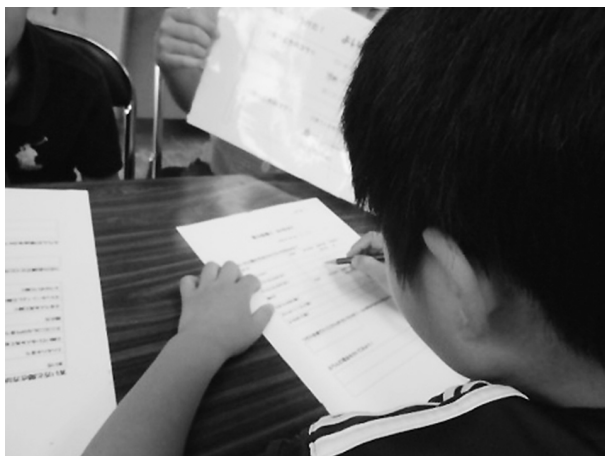
前期プランナー班では、6月に「開講式」「プランナー合宿」、8月に「アツい！中央あそびフェスティバル」を行った。

「開講式」では、「プランナーについて知ること」「仲よしのきっかけをつかむこと」を目的とし、プランナーについての説明の劇やレクリエーションを行った。初対面で緊張していた子どもたちの表情が、説明やレクリエーションを通して徐々にほぐれていく様子が見られた。

「プランナー合宿」では、目的を開講式の延長として設定し、プランナーについて更に知ってもらうために、“会議のコツ”を考えてもらい、実際に会議をしてもらった。また、仲よしの輪を広げるために、室内ハイクやレクリエーションの時間を設けた。合宿で実際に会議をし、楽しい時間を共有したことで、自分たちが企画を作っていくという意識が芽生え、互いに打ち解け合いつつあると感じた。

夏の活動では、「まちがい探し」「クイズ」「障害物リレー」を企画した。目的は「プランナーみんなで参加者をもてなすこと」とした。会議中には、“会議のコツ”を意識させながら、プランナーに、どうしたら参加者に楽しんでもらえるのかを考えてもらった。活動中には、プランナーが、緊張しながらも司会や挨拶、説明など自分の仕事を全うする姿を見ることができた。しかし、参加者受付の時間などに、プランナーだけでいたり、学生に甘えたりしてしまう場面があり、プランナーの企画以外の部分での振る舞い方を考えさせられていなかった自分たちの支援の甘さを痛感させられた。

また、年間目標に関することだけでなく、靴を並べたりイスを入れたりといった、より基本的な部分についてもプランナーに対して声掛けを行っている。まだあまり意識できてはいないが、今後も継続し、プランナーにとって様々な面で成長できる1年にしていきたい。





## 2015年度 後期中央プランナー班 活動報告書

〈後期を振り返って〉

班長 2年 狭間 葵

秋の活動では、熊本大学での「熊大ウォークラリー」を企画した。会議での『仲良し』の目的は「新しいつながりを作り、これまでの仲を深めること」とし、『思いやり』の目的は「相手を意識して話せるようになること」「聞く姿勢を身に付け、相手の意見を理解し反応すること」とし、班分けの工夫、会議のめあての提示などの支援を行った。活動当日は「プランナー間の仲を深めること」「参加者のことを考えて動くこと」を目的とした。支援として、プレを熊大で行ったことで、プランナーは活動当日のイメージを掴めたようだった。結果的に、夏の活動より余裕を持って参加者を迎えることができ、プランナー同士で声を掛け合う姿や、「お客さんに楽しんでほしい！」という姿が見られた。

冬の活動では、中央公民館での「クリスマスパーティー」を企画した。会議の目的を「みんなで仲を深めること」「相手に伝わるように工夫すること」「相手の意見と向き合おうとすること」とし、前期の“会議のコツ”を改めて提示するなどした。活動当日は「みんなで協力すること」「自分の役割を意識して、参加者をおもてなしすること」を目的とした。支援として、一緒に活動するペアを工夫したり、当日の仕事がわかる「手引書」を用意したりした。結果、ペアで役割分担をして積極的に参加者をおもてなしする姿が見られた。

1年間の活動を終えて、『仲良し』については、最終的に男女の壁は少しあったものの、休み時間には一緒に遊んだりおしゃべりをしたりと、6月よりずっと仲良くなり、8人にとってこのプランナー活動が居心地の良いものになったのではないかなと思う。『思いやり』については、まず「はきはき話す」などの「行動」を意識させ、その理由である『相手が聞きやすいから』ということに気づいてもらい、思いやりの「気持ち」につなげようとしてきた。その結果、1年前と比べて「行動」は驚くほど上達した。「気持ち」につなげることは難しかったが、プランナー8人が今後の生活で思いやりの「気持ち」を育んでくれることを願っている。



# 2015年度 中央プランナー班 活動報告

〈発表者〉  
前期班長 反後 克彬  
後期班長 狭間 葵



## プランナーについて

- ・1年間同じ子どもたちと活動する。→プランナー
- ・プランナーが企画、学生がサポートをする。

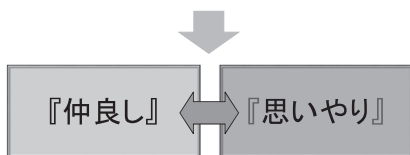
開講式  
↓  
プランナー合宿  
↓  
夏の活動  
↓  
秋の活動  
↓  
冬の活動  
↓  
閉講式

- ・プランナー会議(3回)
- ・プレ
- ・活動

2

## 年間目標について

- 「身につけてほしいもの」
- ・日常生活の中で活かせる力
  - ・周りの人のことを考えられる力
  - ・プランナー間のつながり



3

## 『仲良し』について

- ・無関係 ~~ひとりぼっち~~
- ・グループ化

「プランナーが好き」

4

## 『思いやり』について

周りの人のことを考える ... **気持ち**

相手に聞きやすくするため ... **理由**

大きな声で話す ... **行動**

5

## 冬の活動について

活動内容  
～クリスマスパーティ～

レクリエーション(陣取り)  
ケーキ作り

2班に分かれて  
企画

6

## プランナー会議での目的

『仲良し』  
みんなで仲を深めよう

『思いやり』  
相手に伝わるように工夫しよう  
相手の意見と向き合おう

7

## 『仲良し』についての支援

- 会議の前のレクリエーション  
→プランナーどうしが、楽しみつつ関わる
- 班分けの工夫  
→仲の良い / 関わっていない子を同じ班にする

8

## 『思いやり』についての支援

### 会議のコツ

- ・ハキハキ言う
- ・聞いている人を見て言う
- ・ニコニコしながら言う
- ・言う人を見て聞く
- ・シャキーン! として聞く
- ・うなずいて聞く

- 会議ごとのふりかえり  
→「実践してみて/されてみてどうだったのか」  
から理由に気づかせる

9

## 『仲良し』の支援の結果

### ○ 会議の前のレクリエーション



← 似顔絵リレーの様子

10

## 『仲良し』の支援の結果

### ○ 班分けの工夫



にぎやかな雰囲気での会議ができた

11

## 『思いやり』の支援の結果

### ○ “会議のコツ”の意識づけ



12

## 『思いやり』の支援の結果

### ○ 会議ごとのふりかえり



「はきはき話してもらって、聞きやすかった」

13

## プレ・活動での目的

『仲良し』  
みんなで協力しよう

『思いやり』  
自分の役割を意識してお客さんをおもてなししよう（おもてなし）

14

## 『仲良し』についての支援

### ○ 班分けの工夫

→ 仲の良い / 関わっていない子を同じ班にする

### ○ 協力する場の提供

→ 参加者の 荷物置き場 / 名札 づくり

15

## 『思いやり』についての支援

### ○ ルール説明の練習

→ アドバイスし合い説明をわかりやすく工夫させる

### ○ 手引書の用意

→ 当日の流れとプランナーの仕事が書かれている



## 一年間のプランナー活動を終えて

### ○ 『仲良し』について

- ・ 良い雰囲気が生まれ、それぞれが自分の個性を発揮することができる居心地の良い場となった。
- ・ 閉講式ではメッセージを書き合ったり、帰るときに名残惜しそうにしていたり、「プランナーが好き」だと感じられた。

17

## 一年間のプランナー活動を終えて

### ○ 『思いやり』について

- ・ “会議のコツ”を自然と意識できるようになった。
- ・ 参加者をもてなす姿が見られるようになった。
- ・ プランナーに対しても思いやりを持って接することができるようになった。

しかし...

- ・ 思いやりのある「行動」は身についたが、「気持ち」につなげることができたのかはわからなかった。

## 2015年度 前期託麻単発班 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 藤 本 り え

前期託麻班では、6月に『はじめてのおかいもの～みんなのパワーでご飯を変身させようの巻～』、8月に『皆で作ろうピタゴランド～ピタ子とゴラ男の大冒険～』の2つの活動を行った。

6月の活動は、“楽しさ”と“できた喜びを感じてもらうこと”の2つを軸として活動を企画した。お買い物では、一人ひとりが担当の野菜を選び、会計をするなど、一つ一つの過程を体験することで、お買い物そのものの楽しさに子どもたちは気づき、さらに、できた喜びも感じていたのではないかと考えている。調理では、調理工程をミッション形式にすることで、子どもたちが楽しみながら、できた喜びを感じやすくなるのではないかと考え、小さなゴールをたくさん準備した。活動後には「野菜を選ぶのが楽しかった」「また来たい」という子どもの声を聴くことが出来た。

8月の活動は、“皆で感動を味わってほしい”という学生の願いをもとに企画した。感動を味わうためには、“夢中になること”と“試行錯誤すること”が必要であると考えた。ピタゴラの仕掛け作りにおいて、様々な用具や材料を用意し、子どもの考えを広げた。また、難易度やヒントを出すタイミングを工夫したことで、何度も失敗し、ヒントをもとに改良する試行錯誤の姿を見ることが出来た。さらに、「え、もう終わり!?!」「まだやりたい」といった、活動に夢中になっていたことがうかがえる子どもの声を聴くことができた。ゴールを示す旗が上がった時、子どもたちは歓声を上げたり、飛び跳ねたりしていた。子どもたちが感動を味わっていたと捉えられるこれらの姿は今でも忘れられないものになっている。

前期班長という経験を通して、子どものことを考え、学生の願いを形にしていくことの難しさや素晴らしさを感じることが出来た。どちらの活動も個人では作り得ないものであり、今後も学生の多様な意見を取り入れ、より良い企画をし、子どもたちの様々な姿を見ていきたい。





## 2015年度 後期託麻単発班 活動報告書

〈後期を振り返って〉

班長 2年 平 田 彩

後期託麻単発班では、11月に「はじめてのおかいもの～ビックなバーガーを作ろうぜ!～」、1月に「とびだせ託麻!GO!GO!みんなの大運動会!」という活動を行った。

11月の活動では、子ども達に「班のみんなで完成時の大きな喜びを感じてほしい」という思いのもと、企画を行った。買い物、調理活動において完成までの過程を重視し、スモールステップで完成へと近づいていけるよう支援をした。具体的な支援としては、できた事を可視化し、大きな喜びへとつながるよう、活動で一貫して一つ一つのできた事にスタンプを貼っていくというスタンプラリー形式を用いた。実際に、「できた～」とつぶやきながらスタンプを押す子どもの姿や、ハンバーガーができた時には子どもたちの笑顔や拍手、歓声も沸き起こった。このように子どもたちができた事を実感し、それを積み重ねていったからこそ完成時に大きな喜びを感じている姿を見ることができたと思う。

1月の活動では、子ども達に「班のみんなで達成感を感じてほしい」という思いで企画を行った。そのため陣取りやリレーといった「班で協力して」取り組める競技を取り入れ、競技の間に班での作戦タイムを設けた。実際に活動では自分たちの立てた作戦をもとに勝負し、班の仲間とハイタッチして喜んだり、仲間を応援したりする姿が見られた。また子どもたちの仲間意識は班から全体へと自然に広がっていき、最終的には子ども達全体から「やったー!」という声が聞こえたことから、みんなで達成感を共有していると感じた。このことから子どもたちは共通の目標を持ち、共に取り組んでいくことで、「みんなの達成感」へとつながっていく、と考えた。

後期班長を務めてみて、考えていた支援が目指している子どもの姿に結びついた時の喜び、逆に意外な子どもの姿が見られた時の驚きなど多くの学びがあった。今後も子どもの姿にしっかり着目しながら、企画、実践、振り返りをしていきたい。



## 2015年度託麻単発班



前期班長 藤本 りえ



後期班長 平田 彩

## 前期活動

- ▶ 6月「はじめてのおかいもの  
～みんなのパワーでご飯を変身させようの巻～」
- ▶ 8月「皆で作ろう ピタゴランド  
～ピタ子とゴラ男の大冒険～」

## 「皆で作ろうピタゴランド～ピタ子とゴラ男の大冒険～」

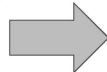
### <目的>

夢中になって試行錯誤をすることを通し、皆で感動を味わおう

夢中になる



試行錯誤



感動

ハイタッチ  
拍手  
歓声を上げる  
飛び跳ねて喜ぶ

## 夢中になるための支援

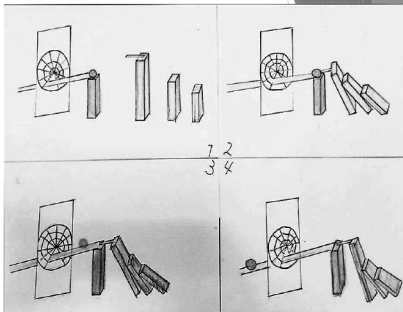
- 様々な身近な材料、用具の準備
  - 難易度高めの設定
- ⇒積極的に考え活動に取り組む



## 試行錯誤をするための支援

### 【ヒントカード】

仕掛けの動きや  
作りの可視化  
⇒ 発想を引き出す



## 試行錯誤をするための支援

### 【ヒントコーナー】

- 活動中盤で出現
  - 見本となる装置
- ⇒ 新たな発想を生み出す



### 活動中の様子

- ▶ ビー玉転がしの時の飛び跳ねたり、  
ハイタッチをしたりしている姿
- ▶ 「もう終わり!？」「まだやりたい」といった声
- ▶ 活動もビー玉転がして遊んでいた姿

私たちが目指した  
感動の姿

ハイタッチ  
拍手  
歓声を上げる  
飛び跳ねて喜ぶ



感動を味わえたのではないかな

## 前期を振り返って

- ▶ 子どものことを考え、学生の願いを形にして、このことの  
難しさや素晴らしさ
- ▶ 個人では活動を作ることにはできない  
⇒ 学生の多様な意見を取り入れるからこそ、  
活動は作ることができる
- ▶ 今後もより良い企画をめざし、  
子どもたちの様々な姿を見ていきたい



## 後期活動

- ▶11月 「はじめてのおかいもの  
～ビッグなバーガーを作ろうぜ!～」
- ▶1月 「とびだせ託麻!  
～GO!GO!みんなの大運動会～」

「はじめてのおかいもの  
～ビッグなバーガーを作ろうぜ!～」

お買い物

ハンバーガー作り



## <目的>

小さなできたを積み重ねることを通して、  
班のみんなで大きな喜びを感じよう

野菜が買えた

お会計できた

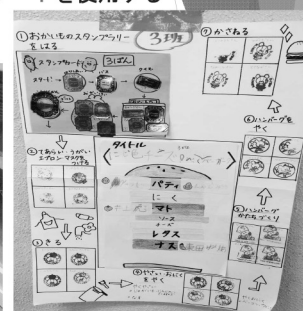
具材が切れた

具材が焼けた



大きな喜びを感じる（歓声を上げる、拍手、笑顔）

具体的な支援としては、  
一日を通してスタンプラリーシートを使用する  
できた事を可視化する



## 活動を通して

ハンバーガーができたとき、  
子どもたちの笑顔や拍手、歓声が沸き起こった  
→子どもたちができた事を実感し、それを積み重ねていき、  
大きな喜びへとつながったのではないかな



## 後期を振り返って

活動では予想していた子どもの姿や  
意外な子どもの姿が見られた

準備した支援が実際の子どもの姿にどう結びついたのか  
を考えることが私たちの学びとなった



今後も子どもの姿を想定しながら企画し、  
子どもの姿に着目しながら実践・振り返りをしていきたい

ご清聴ありがとうございました

## 2015年度 前期大江単発班 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 永 渕 敦 弥

前期大江班では、6月に「進め！大江音楽隊～つくってワクワク、ならしてドキドキ～」、8月に「てくまち探検キラキラサマー」の2つの活動を企画した。

「進め！大江音楽隊」は、自分だけのこだわりを詰め込んだ楽器を作り、それらを用いて班の仲間と共に演奏を行うという活動であった。私たちは活動を通して、最終的に子どもに感動を味わってもらうことをねらいとした。今回の活動において、感動には「身近な素材から自分の手で音の鳴る楽器を作り出すことが出来るという感動」と「班全員で合奏することによる一体感から得られる感動」、「両方が合わさることによって生まれる感動」があると考え工作と演奏会の2つの面から感動に繋がる工夫を考えた。子どもたちは、楽器作りをする上で試行錯誤しながら自分だけの楽器を完成させ、それらを用いて班の仲間と共に一生懸命に合奏をしていた。また振り返りにおいて楽器づくりや合奏で得られた喜び・感動を班でしっかり共有することが出来ていたと思う。

「てくまち探検」は、路面電車を用いたウォークラリーを通して仲間と協力しながらミッションをクリアし、ゴールした際に達成感や協力することの良さを感じてほしいと考え、活動を企画した。そのために、①必然的に協力するミッションを設ける②子ども一人ひとりに係を持たせる③最後に一日の振り返りの動画を見せる④班の仲間からのコメントを参加賞に貼ってそれぞれに渡す等、協力することの良さを感じてもらうための支援を多く取り入れた。その結果子どもたちは一日を通して仲を深め、更に協力したからこそゴールできたという声も聞くことができた。子どもが協力することの良さを知る体験活動になっていたと思う。

2つの活動ではどちらも子どもの内面を知る必要があり、企画・振り返りの中で議論を深めることが出来た。しっかり学生間で話し合いをしたからこそ、子どもが本当に楽しめる活動に出来たと考え、これからの子どもとの関わりに活かしていきたいと思う。



## 2015年度 後期大江単発班 活動報告書

〈後期を振り返って〉

副班長 1年 三 原 敬 子

後期大江班では、12月に「ガラスの中に世界を作れ！～君だけのスノードーム～」、2月に「大江探偵団～この謎が君にとけるか？～」の2つの活動を企画した。

「ガラスの中に世界を作れ！」は、作ったスノードームに愛着を持ってほしいという願いから、活動においては夢中になることと、自分で材料を選んで1から作ることで、自分の作品に満足感を得ることをねらいとして活動を企画した。活動では、手元に材料箱を置き、その中の材料を見たり触ったりしながらイメージ図を描いた後に、工作を行った。工作中には、学生も思いつかないような発想で作品の中に入れる飾りを作る子もいた。また自分の作品を見直すことが満足感につながると考え、工作後は自分の作品のこだわった部分を書いてもらった。保護者や学生に自慢したり、自分の作品をじっくり見つめたりしており、後の愛着につながる満足感を得ていたと思う。

「大江探偵団」では、仲間と協力して困難を乗り越えることで喜びあってほしい、という思いから活動を企画した。謎解き前に、「班のみんなで謎解きをする事」を意識づけるためのクイズを行ったおかげで、その後も協力して謎を解くことができていたと思う。困難については、子どもたちの「できない」を引き出すことで謎が解けた時の喜びが大きくなると考え、謎の難易度にこだわった。謎解きでは、一人一人が積極的に取り組み、適度にヒントを与え、子どもたちに十分に考えさせた。謎が難しかったことに加えて自分たちで答えを出したことで、謎が解けるたびに子どもたちも喜び合うことが出来ていたと思う。謎解き中に、答えが分かった子が答えの分かっていない同じ班の子に理由をつけて説明している姿、最後に宝箱の鍵が開いた時の喜んでいる姿は忘れられない。

ねらいをもって子どもにあった支援を行っていくことが、子どもたちの意欲を引き出すということを改めて感じた。今後も、子どもの視点に立って子どもが楽しめる活動を企画していきたい。



# 大江単発班

～活動報告～

班長 永瀬 敦弥  
副班長 三原 敬子

## 大江班 前期活動

6月28日 進め！大江音楽隊  
～つくってワクワクならしてドキドキ～

8月 9日 てくまち探検キラキラサマー

### <目的について>

子どもたちに感動する気持ちを味わってほしい！  
→どんな感動が見られるのか…？

身近な素材から楽器を作り出せる  
という驚き



班全員で合奏  
することで  
得られる一体感

2つが合わさること生まれる感動も！！

目的：こだわりのmy楽器を作って、仲間と共に一つの音楽を作り上げ、感動を得よう！

### <目的に対する支援>

○こだわりのmy楽器を作る

○仲間と共に作り上げる

・作りたい楽器を自由に選ぶ

・班で合奏の練習をする  
時間を多くとる

・自分で楽器に音程を付けることができる

・曲中に自分たちで自由にアレンジできるパートを入れる

### <活動の流れ>

こだわりの楽器を  
作る（工作）



曲を合奏する  
（演奏会）



### <活動を振り返って>

#### 良かった点

- ・作った楽器を喜んで持ち帰る子どもが多かった
- ・演奏後、お互いに喜び合う姿を見ることが出来た

#### 改善点

- ・演奏会で緊張してしまう子どもが多かった
- ・班内でうまく打ち解けられない子どもがいた



子どもの立場に立って支援を  
考えていく必要がある



## 大江班 後期活動

12月20日 ガラスの中に世界を作れ！  
～君だけのスノードーム～

2月13日 大江探偵団  
～この謎が君にとけるか？～

### <目的について>

目的：困難に向かって班で協力して乗り越える  
ことで、喜び合おう

○困難→ 子どもたちの「できない」



謎が解けた時の喜びが大きくなる

### <目的について>

目的：困難に向かって班で協力して乗り越える  
ことで、喜び合おう

○協力→ 協力するための“掟”

- ①答えが分かってもすぐ言わない  
②答えはみんなで声を合わせて  
『せーの！』

### <活動の内容>

- ①クイズ  
②謎解き

前半：困難としての謎  
後半：楽しんで解く謎

【話し合い 教えあい】

↓  
“協力して解くこと”が  
浸透していた！



### <活動を振り返って>

#### 良かった点

- ・一人ひとりが積極的に取り組んでいた
- ・子どもに十分考えさせることができた
- ・謎が解けるたびに喜び合っていた

#### 改善点

- ・子どもにとってのゴールを明確にする



学生の目的に寄り過ぎない、  
子どもに寄り添った活動作り

### <1年間を振り返って>

ねらいを持った支援

→子どもの意欲を引き出す

子どもの視点に立って、  
子どもが楽しめる活動にしていけることが大切

ご清聴ありがとうございました

# 2015年度（平成27年度）熊本大学教育学部フрендシップ事業 シンポジウム・分科会開催要項

日時：2016年（平成28年）3月7日（月） 9：30～16：00

場所：熊本大学教育学部3－A・3－B教室

[午前の部：学生自主企画分科会 教育学部3－A・3－B教室]

## 1. 学生自主企画分科会 9：30～12：30

開会挨拶 分科会実行委員長

反後 克彬

### 【分科会設置の目的と目標】

目的：今回の自主企画分科会の目的は「高め合い」とした。

これは、分科会の中での意見交流によってお互いの意見から学んだり発見したりすることで、互いをより高め合い、今後の企画や活動の更なる充実化を図るものである。

目標：目的を達成するために、今期の方針である「視野を広げる」を目標とし、出てきた意見についてしっかりと考える姿勢を持つことを目指すこととする。

9：30～ 開会式

9：50～ 第一部意見交換（70分）

11：00～ 休憩（10分）

11：10～ 第二部意見交換（80分）

12：30～ 閉会式

## 2. 連携協力機関関係者との企画運営協議会 12：50～13：20

会場：くすの木会館 和室

連携協力機関関係者

熊本大学教育学部教員

[昼食]

[午後の部：シンポジウム 教育学部3－B 教室]

## 3. 開会挨拶 13：30～13：40

熊本大学教育学部長

登田 龍彦



#### 4. メイクフレンズ活動の実施報告 13:40~14:40

##### (1) メイクフレンズ活動全体の振り返り

メイクフレンズ船長

高田 知佳

##### (2) 班活動の振り返りとコメント

メイクフレンズ「五福ホール班」班長

(前期) 鮫島優美子

(後期) 青崎勇太郎

熊本市五福公民館社会教育主事

中川 徳子

メイクフレンズ「中央プランナー班」班長

(前期) 反後 克彬

(後期) 狭間 葵

熊本市中央公民館社会教育主事

江川 義友

メイクフレンズ「託麻単発班」班長

(前期) 藤本 りえ

(後期) 平田 彩

熊本市託麻公民館社会教育主事

赤木 一延

メイクフレンズ「大江単発班」班長

(前期) 永渕 敦弥

(後期) 三原 敬子

#### 5. 連携協力機関関係者からのコメント 14:40~14:50

熊本県生涯学習推進センター 審議員

秋山 純晴

熊本市 市民局 生涯学習推進課 社会教育主事

川口 雅嗣

休憩 14:50 ~ 15:00

#### 6. 特別講演 15:00~15:50

熊本県教育庁社会教育課長

河村 雅之



#### 7. 修了証授与並びに閉会挨拶 15:50~16:00

熊本大学教育学部附属教育実践総合センター長

古賀 倫嗣

## Ⅱ. 分科会の実施報告





# 2015年度メイクフレンズ学生自主企画分科会

## 1. 目的 『高め合い』

理由 分科会における意見交換によって互いの意見に学び、視点や考え方を自分の中に取り入れ合うことで、高め合ってほしい。また、そこで得たものを、今後のメイフレとしての活動の中に活かしていったほしいという思いから、この目的を設定した。

目標 方針の「視野を広げる」にある、出てきた意見についてしっかりと考える姿勢を持つことで、それまで自分の中になかった新たな視点を持つ。

## 2. I 分科会で取り扱うテーマについて

分科会のテーマを考えるにあたって、分科会で話したい内容に関するアンケートを行った。そこから、多くの意見として挙がっていたこと、さらに、分科会委員で船員みんなに考えてほしいことを考え、第1部では、「振り返り会について」を共通テーマとした。

第2部では、アンケートの集計結果から7つの議題を設定し、希望調査・具体的内容の調査によって班構成を行った。

### II 第2部の議題について

- ①目的は何のためにあるのか
- ②目的の立て方・振り返り方について
- ③目的についての支援
- ④学生にとってメイフレの活動とはどのような場であるべきか
- ⑤子どもにとってメイフレの活動とはどのような場であるべきか
- ⑥子ども理解とは何か
- ⑦子どもとの接し方

1班：	①	目的は何のためにあるのか
2班：	②	目的の立て方・振り返り方について
3班：	③	目的についての支援
4班：	④	学生にとってメイフレの活動とはどのような場であるべきか
5班：	⑤	子どもにとってのメイフレの活動とはどのような場であるべきか
6班：	⑤	子どもにとってのメイフレの活動とはどのような場であるべきか
7班：	⑥	子ども理解とは何か
8班：	⑥	子ども理解とは何か
9班：	⑦	子どもに対する接し方
10班：	⑦	子どもに対する接し方

# 実施計画

## 1. 時間 9:30～12:30

- 9:30～ 開会式
- 9:40～ 第一部意見交換 (70)
- 10:50～ 休憩 (10)
- 11:00～ 第二部意見交換 (80)
- 12:20～ 閉会式

## 2. テーマ

第一部：振り返り会について（全班共通）

### 第二部

1 班：目的は何のためにあるのか

- 1 年：高倉 愛海 笠 笑太
- 2 年：讃井 友理 永渕 敦弥
- 3 年：平部 優佳
- 4 年：坂本 悠

2 班：目的の立て方・振り返り方について

- 1 年：小野安佳里 白石麻衣子 佐藤 七海 黒板真由子
- 2 年：上村 詠美
- 3 年：甲斐 遼太
- 4 年：吉瀬 千尋 小柳 知穂

3 班：目的に対する支援について

- 1 年：福井 真歩 中村 綾
- 2 年：遠矢 咲保 狭間 葵
- 3 年：反後彰一郎
- 4 年：立山 史子

4 班：学生にとってメイフレの活動とはどのような場であるべきか

- 1 年：水谷 友哉 前田 祐輔
- 2 年：清田麻里衣 木村佳菜美 廣澤 恵理
- 3 年：津村 征弥
- 4 年：坂崎 優平 奥平萌菜美



5 班：子どもにとってメイフレの活動とはどのような場であるべきか

1 年：宮田 佳尚

2 年：倉田 菜月      松尾詩織理      反後 克彬

3 年：金子 美咲

6 班：子どもにとってメイフレの活動とはどのような場であるべきか

1 年：三原 敬子      安居 聖大      村上 貴子

2 年：松尾 勇治      鮫島優美子

3 年：渡辺 恭平      東 千貴

7 班：子ども理解とは何か

1 年：本村 光平      石山 萌花      山田 紗永

2 年：平田 彩      高田 知佳

4 年：藤山 茉優

8 班：子ども理解とは何か

1 年：高橋 海咲      前田弥沙希

2 年：山田 裕崇      青崎勇太郎

3 年：野田 雅大

4 年：工藤 友徳

9 班：子どもに対する接し方について

1 年：古田 聖佳      平岡 正俊      岡 綾乃

2 年：山口 萌

3 年：舟戸 多朗

4 年：牟田 早織

10 班：子どもに対する接し方について

1 年：清崎 万桜      古屋 嬉乃      児玉 知夏      矢野ちほみ

2 年：藤本 りえ

3 年：土井 美佳      萩島 裕士

( 1 ) 班 テーマ「振り返りについて」メンバー(きっせ、ステイツチ、ひな、きの、レトロ、ナイヤ、なつめ)

<p>1.議題 <b><u>振り返りはなんのために《意味》</u></b> (意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りででた良かった点だけではなく、駄目だった点も皆で気付けて話して共有することで次の活動に生かすため。</li> <li>・活動はやりっぱなしでは気づかないことも多いが自分自身で振り返り反省点を出し合うことで次に生かすため。</li> <li>・振り返りという場は自分の意見を言える場であり成長、高め合いの場でもあるから。</li> <li>・活動を通してほかの人の意見を聞くため。</li> <li>・支援に対しての子どもの反応を共有するため。</li> <li>・班付きは班の子どもたちだけ、裏方はあまり子どもたちと関われないという状況でも共有するため。</li> </ul> <p>(まとめ)</p> <p>→振り返りは一人一人がそれぞれもつ意見を言える場であり、他の方々の意見を聞ける場な上に、活動に対する良かった点や改善点を出し合い共有することで次に生かせるから。</p> <p>2.議題 <b><u>振り返り会は何のためにあるのか</u></b> (意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の班のことを知れるし、興味もあり、こちらとしても知りたいから。</li> </ul>	<p>・改善点、支援、良かったことをみんなで話し合うことで新たな発見になるから。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の班のことを知ってほしいから。</li> <li>・班によって特色があるため、全部が全部をいかすことはできないが、学年の特色をつかめたり、こんな子どもにはこんな支援というのがつかめたりするから。</li> <li>・一年間で四回しかない単発の場合でも、振り返りがあることで沢山話し合えるし、意見を聞けるから。</li> <li>・活動班が報告し、他班が考え、意見をいうことでとらえ方が違うぶん子どもについて意見を深められるから。</li> <li>・四年生からの意見を聞け、教えてもらえるから。</li> </ul> <p>(まとめ)</p> <p>→振り返り会是他班のことを知りたい、他班に知ってもらいたいという互いの想いに一致しており、新たな発見の場でもあり、学年・班を越えた学生の意見によってさらに深められるし、視野を広げるという点でも有効だから。</p> <p>3.議題 <b><u>振り返り会をどんな場にしたいか</u></b> (意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上手くいなかった、思い通りにならなかったことに対しての支援を聞きたい。</li> <li>・改善点を深めて、次に生かしたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単発の場合すぐに振り返りができない場合もあるが、その場で振り返れるようにしたい。</li> <li>・上手くいったエピソードを自分から書くのは難しさがあるので、気づいた他者から聞きたい。</li> <li>・振り返り会のゴールは、より良い活動を目指すことかもしれないが、将来的に子どもと接する職業に就いた時にもいかせるように支援、言葉かけを文字におこしたい。</li> <li>・あげられた良かった点について、そこにたどり着いた過程をしりたい。</li> <li>・色んな班、色んな経験をしたひとから吸収できる場にしりたい。</li> </ul> <p>(まとめ)</p> <p>→将来的な面からみても、役立てることが出来るくらい多角的な視点をもった話し合いをすることで吸収し成長できる場にしりたい。</p>
---	--	--

( 2 ) 班 テーマ「振り返り会について」メンバー (ザック、オシム、どどん、わかちゃん、もえびー、まゆゆ、よしの)

1. 議題 そもそも振り返り会とは	2. 議題 どのような振り返りにしていきたいか	3. 議題 振り返り会についての改善点・疑問
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メイフレの活動の一連の流れとしてあるもの</li> <li>・他班との交流の場</li> <li>・班内で反省点を共有する事により、次への作戦がたてられる</li> <li>・支援を振り返ることで自分の学びにもつながる</li> <li>・活動をしたままにしていると漠然としたもので終わってしまう</li> <li>・活動内容は別でも子どもに対するということは変わりないのでお互いに高め合える場</li> <li>・自分たちの信念、思いを伝えられる。</li> </ul> <p>(まとめ)</p> <p>→班内だけでなく他班を巻き込みながら活動内容や支援を振り返ることで、お互いに学びあいながら次の活動へとつなげるヒントがえられる場。</p>	<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な活動内容を伝え、他班の活動を知ってもらえるような振り返り</li> <li>・支援はどうだったのかを詳しく→エピソードを取り上げる。</li> <li>・悪かったところを深める→ムービーやカメラを見せるときに良い点だけでなく悪いところを取り上げる</li> <li>・それぞれ意識のちがう他学年が話し合いをすることで、学び多きものとなる</li> <li>(1年生は聞いて学ぶ、2年生は企画に対しての質問受け、共有、3.4年生は異なる視点から深め、フォローする)</li> <li>・企画についてばかりでなく子どもについて話せるように</li> </ul> <p>(まとめ)</p> <p>→活動内容についての議論も大切であるが、子どもたちの具体的なエピソードを取り上げながら対応の仕方を考えていきたい。</p>	<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の意見が見れない→LINEでの共有は逆に軽いものになってしまう</li> <li>・班を途中で入れ替える</li> <li>・緊張して発言できない事がある</li> <li>・緊張せず誰でも気軽に話せる雰囲気づくり</li> <li>・振り返りの前にIBをその班で行う</li> <li>・司会の進め方が難しい</li> <li>・司会の技量により話し合いの深さがかわる</li> </ul> <p>(まとめ)</p> <p>→振り返りに気軽に参加できる雰囲気づくり、話し合いの進め方に班で差が出ないような取り組みをしていく</p>

( 3 )班 テーマ「振り返り会について」メンバー(かりびよん、なる、しいちゃん、かわさき、ともぞう、だーやま)

<p>議題 1 <u>なぜ振り返り会をするのか</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他班の活動を知る機会</li> <li>・自分たちの班で解決できないことも他班なら解決できるかも</li> <li>・誰のための振り返り会？</li> <li>・ただの報告会になっていていいのでは？</li> <li>・振り返りの時間をもっと取るべきでは？</li> <li>・課題を共有したい</li> <li>・事前にどんな活動を{目的も含め}行うか紹介する時間をとれないか</li> <li>・個人班でしっかり反省会をしていれば、全体での意見も出てくるのでは</li> <li>・気づきの場になればよい</li> <li>・振り返りシートには、突っ込みどころがあるやつをかいてほしい</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>振り返り会をする理由として、「課題に対し他班からの意見をもらう・他学年の意見をもらう」ことにより視野を広げるためということが挙げられる。また、振り返り会を行ううえで、個人班での振り返りをまずは大切にしていっていきべきであり時間をかけるべきという意見もあった。</p>	<p>今の振り返り会の問題点としては、振り返り会が活動の報告会にしかなくてないということ・振り返りの時間が少ないことが挙げられた。</p>
---	---

( 4 )班 テーマ「振り返り会について」メンバー(ウーロン、ペコ、らあや、まっしあん、りりい、たろー、ちい)

<p>議題 1</p> <p><b><u>振り返り会の意義 (なぜするのか)</u></b></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えていたことと、実態を照らし合わせるため。</li> <li>・これからにいかすため。</li> <li>・反省 ・新しい意見を取り入れるため。</li> <li>・役割によっての視点を活かすため。</li> <li>・視野を広げるため。 ・監視的な役割。</li> <li>・他班の良さを取り入れるため。</li> <li>・引き出しが増えるから。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p><b>振り返り会をすることにより事前の話し合いではない視点からの意見を取り入れることができ、視野を広げることにつながる。</b></p> <p>議題 2</p> <p><b><u>その良いところをもっと生かすために</u></b></p> <p>○他班の良さを取り入れられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発言を増やす。</li> </ul> <p>→振り返り会をする班の情報を増やしたら、もっとそれぞれが意見をもてるため、発言が増える。</p> <p>→エピソードをもっと書くようになったら、話が広がり発言が増えそう。</p> <p>→振り返り会の資料の見やすさを上げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと義務的にすると、自然と良くなるのでは。</li> <li>・仲良くないと活発な議論ができないから、レクを増やすなど交流を増やしたい。</li> <li>・振り返り会の前後に班でよく話し合う。</li> <li>・専用のノートを作る。</li> <li>・一人ひとり聞くのではなく、もっと会話をするように話をつなげる。</li> </ul> <p>○振り返り会で話し合ったことを活かすために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エピソードがあった方が、その状況を想像することができ、活かしやすくなるのでは。</li> <li>・振り返り会で出た意見をノートにためる。</li> <li>・振り返り会の振り返りを班でする。</li> <li>・それぞれがもっと頑張る。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p><b>エピソードをもっと充実させることに大きな意味がありそう。他には、意見をまとめるノートを作る、班でもっと話し合うなど。</b></p> <p><b><u>以下、自由な議題</u></b></p> <p>○何度も同じことを話していることについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・別にそれでもよく、定着や新しい人もいるのだから、何度も話すことに意味があるのでは？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完璧はないから意味がある。</li> <li>・話し合いの過程が違うからいいのでは？</li> <li>・ピンポイントで細かいところを話すとよさそう。</li> <li>・話し合いの時間が短く、浅い話し合いしか行われていないのでは。</li> <li>・建設的な話し合いや、深い話し合いを。</li> </ul> <p>○他班のことをわからない (単発→プランナーなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの視点が違う。</li> <li>・どこの班でもできるような話し合いをしたい。</li> <li>・子ども→支援→… というように逆の順番で話し合いをするとほかの班の人達も話しやすいのでは？</li> </ul> <p><b><u>まとめ</u></b></p> <p><b><u>狭く、深く、逆に</u></b></p> <p>振り返りの時間に、一つの活動をその班で作ると面白そう。</p>
--	---	--



( 5 )班 テーマ「振り返り会について」メンバー(よっちゃん、八木さん、ミギー、マリン、くらっち )

<p>議題 1</p> <p><u>なぜ振り返りを行うのか</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の中の反省が出来る</li> <li>・自分を向上させることが出来る</li> <li>・次の活動をよりよくすることが出来る</li> <li>・1人で見ることが出来るものは限られるが、皆で見たものを合わせることによって、より大きな発見につながり、視野が広がる</li> <li>・活動の中で得られる学びや発見は、後の振り返りの機会がないとあいまいなまま終わってしまう。振り返りがあることで、得られた学びが具体化する</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>振り返りは、次からの活動をよりよくしていくために大切であるのはもちろん、自分自身の成長や集団の成長につながるものである。自分自身においては、活動で得られた学びを具体化し、反省することが出来るし、集団で振り返ることによって、視野が広がる。</p> <p>議題 2</p> <p><u>振り返り会についてどう思うか</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他班の意見を聞いて視野が広がる</li> <li>・他の班のことを知る機会になる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画、活動、振り返りをより良くしていくため</li> <li>・同じ状況においても、班によって対応の仕方が異なる。色んな班の人の意見を聞くことで、色んな対応の仕方を知れる。</li> <li>・他の班の人たちと仲良くなれる良い機会</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>色んな班の人の意見を聞くことで、視野を広げることが出来る良い機会である。また他の班の活動を知ることが出来るし、他の班のメンバーと交流することのできる場である。</p> <p>議題 3</p> <p><u>振り返り会の疑問点・改善点</u></p> <p>Qひとつ前の振り返り会の形式において、話し合う議題を一つにしぼったのはなぜなのか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの議題にすることで、一人一人が自分の意見を考え、話すことが出来る</li> </ul> <p>Q新しく入ってくる1年生にとっては、議題が1つだけ提示されている形式と、考えるテーマも自由に選んでもらう現在の形式とどちらがいいのだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1つだけの議題だと、その議題に答えられないと逃げ場がない</li> <li>・考える議題まで自由だと、何を考えていいのか</li> </ul>	<p>分からなくて困るのでは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いづれにしても考える時間をとっておくことが大切。レジュメを前もって、LINEなどで伝えておく</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>個人個人の疑問に思っていることを話し合った。振り返りの形式がどういった経緯で決めたのかについて、2年生と3年生から説明をした。また新たに入ってくる1年生にとって振り返り会はどうなのかについて話した。</p>
---	--	--

<p>議題 1</p> <p><b>振り返りの意義</b></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・メイフレの大きな特徴「企画→実践→振り返り」の中の一つとして重要であるから。</li><li>・やってきたからこそ、ここまでサークルとして続いてきたと思うから。</li><li>・目的を立て、子どもに思いを持って活動を行った以上、反省点等を出して次につなげなければいけないから。</li><li>・活動をより良くするため。</li></ul> <p>まとめ</p> <p>目的や思いをもって企画・実践を行った結果がどうであったか、やりっ放しではなく、振り返ることが大切である。</p> <p>振り返りは、その反省等を今後の活動にいかし、活動をより良くするために行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・他班から客観的に見てもらうため。自分たちの班だけでは凝り固まってしまうのではないか。</li><li>・言葉としてプレゼンテーションする能力を身に着ける機会としても大切。</li><li>・今の振り返り会では意義はない。活動の紹介の場としても、他班から意見をもらう場としても中途半端である。結局大切になってくるのはそれぞれの振り返りではないか。</li></ul> <p>まとめ</p> <p><b>客観的に活動を振り返るため。</b></p> <p>また、自分の班の活動を他班に伝えたり、他班から意見を受けたりする場であるが、その意義を十分にもたせるには、どちらも中途半端になってはいないか、という問題がある。</p>	<p>こともある。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・共通のことを話すには、どうしても話を一般化することになり、一般論の話し合いになる。</li><li>・結局個人の問題で、個人個人のレベルアップが班に還元される。班や全体で共有はいるのだろうか。共有＝還元ではない。</li><li>・振り返りの方向性から見直す必要があるのではないか。</li><li>・報告は大切だと思う。</li><li>・フリートークの方がいろいろ話せる。</li><li>・もっと個人で深める場にするべきではないか。</li><li>・個人で深めるには個人の振り返りシート印刷も大事だと思う。自分の振り返りについて聞かれることで、深まる。</li></ul>
<p>議題 2</p> <p><b>振り返り会として全体で行う意義</b></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自分の班でしている活動を他班にも伝えるため。</li><li>・他班の活動を知るため。</li></ul>	<p>議題 3</p> <p><b>どのような形で振り返り会を行うのが良いのだろうか。</b></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・他班からの意見は、正直聞き流してしまうこともある。どうしても細かい状況は伝わらないから。</li><li>・自分が言う時も、その班で話していることの方が質が高いと思うでしょう。</li><li>・受け入れられなくても知ることが大事、いかせる</li></ul>	<p>まとめ</p> <p>個人の力を高める方向で振り返りの形を考えるべきである。具体的には、振り返りシートやタイムテーブルを全員分刷って、それを基に質問等を行う形式が考えられる。</p>

( 7 )班 テーマ「振り返りについて」メンバー(うめちゃん、ひとり、みい子、miwa、さきほこ、たんたん)

<p>議題 1</p> <p><u>活動後の振り返りは何のために行うのか</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動後にしか分からない反省点を振り返り次の活動につなげるため。</li> <li>・自分たちの子どものイメージと実際合わないことがあるので修正していくため。</li> <li>・子どもへの反応など自分だけでは気づかない部分に気づき今後活かしていくため。</li> <li>・100%成功の活動はないため、さらに良くしていくために振り返りを行う。</li> <li>・自分たちの考えた子どもに対する支援を実際にして、振り返ることで引き出しが増えていく。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>活動を終えて、良かった点悪かった点を振り返り次の活動に活かしていくため。また、支援方法などの自分自身の引き出しを増やしていくため。</p>	<p>れられ、視野が広がる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの中だけの視点だと考えが狭まったものになってしまうから。</li> <li>・それぞれ特性の違う班の考え方を知ることによって活動の幅が広がる。</li> <li>・お互いに良いところを取り入れられ、また他班の失敗を活かすことができる。</li> <li>・視点が凝り固まってしまうと、子どもを自分の持っている視点からしか見ることができなくなってしまう。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>自分たちの班だけでなく、他班からの意見を聞くことでいろんな点に気づくことができ、様々な視点をもって次の活動を行うことができるため。</p>	<p>まとめ</p> <p>もっと具体的な振り返りの発表にし、話し合いが活発になるようにする。そして、次の活動に活かしやすい振り返りを行う必要がある。</p>
<p>議題 2</p> <p><u>全体で行う振り返り会は何のために行うか</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちにとっては完璧な準備をしたつもりでも客観的な指摘で気づけることもたくさんあるから。</li> <li>・他班と話し合いを行うことで、違う考えを取り入</li> </ul>	<p>議題 3</p> <p><u>振り返り会に対する疑問・改善したいところ</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返り会では抽象的な話が多い。もっと具体的な子ども達の姿、班のこだわりを話していく方がよい。</li> <li>・発表する側がもっと詳しく伝えることで質問も出やすいし、ひとりひとりの学びにつながりやすくなり、次に活かしやすい。</li> </ul>	<p>議題 4</p> <p><u>振り返り会をどのような場にしたいか</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人に学びがあり、引き出しを増やすことのできる場にしたい。</li> <li>・悪いところだけでなく良いところにも触れて振り返ることのできる場。そして、他班からの指摘などにも触れ、自分の視野を広げていくことのできる場。</li> <li>・いろいろな人の思いを知ること。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>一人一人が支援方法などの引き出しを増やし、他班の意見にも触れ自分の視野を増やしていくことのできる場にしたい。</p> <p>全体を通して企画、実践、振り返りの流れを大切にすることがより良い活動を生み出していくことにつながると思われる。</p>

<p>議題 1</p> <p><b>活動後の振り返りの必要性</b></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・企画段階での見たい姿のイメージ、支援について実際に子どもに会ってどうであったか違いを知ることができる。</li><li>・できなかったことを全体に出す(共有)ことで問題を客観視できる。全体の問題として捉えることができる。</li><li>・活動直後は楽しかったという気持ちから良い点しかでない。自分たちが成長するために考える場として必要。改めて考えなおすことで改善点が見つかると。</li><li>・次の活動に生かせる反省点が見えてくる。日をおいて振り返りを行うことで見えるものがある。</li></ul> <p>まとめ</p> <p>振り返りは実際の子どもの様子がどのようなものであったかを知るよい機会である。落ち着いて見つけなおすことにより、できなかったことを共有、客観視することによって次の活動に生かす点が分かる。</p> <p>議題 2</p> <p><b>子どもと関わるうえで振り返りはどのようなものであるか</b></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・〇〇な子への支援には答えがない。答えがない</li></ul>	<p>からこそいろいろな支援を話し合うことができる引き出しが増える。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・プランナーは一年を通して同じ子どもであるために次に確実につなげることができる。</li><li>・さまざまな子どもの様子を共有することができる。</li><li>・単発の裏方は子どもを見る機会があまりないため貴重な情報である。</li><li>・働きかけによる子どもの様子から引き出しを増やすことができる。</li><li>・見たい姿と見られた姿の違いについてなぜそうなったのか、ずれを考えることが大事。</li></ul> <p>まとめ</p> <p>子どものいろいろな姿を共有することができるため働きかけとその結果から引き出しを増やすことができる。予想と実際の子どもの姿の違いを考えるきっかけになる。</p> <p>議題 3</p> <p><b>企画について振り返りをする意味</b></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・活動の流れ、学生の動きを反省し次に生かす。</li><li>・当日というよりも企画段階での見直すべきことを知る。</li><li>・子どもの姿について話し合う時間を確保するなど話し合いにおける反省を次に生かす。</li><li>・目的の振り返りとは企画内容と当日の働きかけ</li></ul>	<p>である。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・目的が複数ある場合は、目的の共有をしないとずれが生じるため、共有が大切である。</li><li>・目的の振り返りを行うことが大事。</li></ul> <p>まとめ</p> <p>企画についての振り返りでは、活動を全体的に見て反省することができる。企画段階、子どもへの関わり方の振り返りを行うことで目的へと帰ってくる。これは間接的に子どもに関わって行くことである。</p> <p>議題 4</p> <p><b>振り返り会は何のためにあるのか</b></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・活動に参加できなくても他班の考え方、子どもへの接し方の違いを知ることができる。</li><li>・プランナーの振り返りは活動というより教師になってから役に立ちそうである。</li><li>・振り返り会では一緒に考えることが大事であるが、議題は各班独特のものが多く難しい。</li><li>・知識面を充実させる意味もあるが、人との関わり場としても機能している。</li><li>・成長できたかは別として、先輩方の意見を知る場である。</li><li>・振り返りをした班が、班に持ち帰って共有することが大切である。</li><li>・振り返り会では意見を言えるのが大事である。</li></ul>
--	--	---

<p>今の形式はみんなが意見を言いやすい。          ・他班に説明することで自分の活動を客観視できる。</p> <p>まとめ</p> <p>自分の活動を客観視したうえで他班の人と一緒に考え、それを自分の班に共有することが大事である。          また、振り返り会は交流の場としても機能している。</p> <p>議題 5</p> <p><u>今の振り返りの形式について</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数の方が意見を言える。</li> <li>・統一した議題では結論はどの班も一緒である。</li> <li>・班内での振り返りがしっかりしていることはいいことであるが、報告書が完結しているため意見が思いつきにくく質問しづらい。</li> <li>・他班の人と話し合う余地が残っていた方がいい。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>少人数で話し合いがしやすい形式ではあるが、報告書として完結している分質問がしづらくもある。</p>		
---	--	--



( 9 )班 テーマ「振り返りについて」メンバー(かんだ、もな、ガイヤ、ケロ、いろは、ひらっち)

<p>議題 1</p> <p><b><u>振り返りをする意味</u></b></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動はただすればいいのではなく、ねらい、意図を持ってするもの。企画を振り返ることによりよい企画となる。</li> <li>・毎回の活動は内容も、出会う子ども達も違うが、その振り返りは次の企画に対しても十分に役立つものだから。</li> <li>・全体の振り返りでは他班、他学年との交流があり、今までになかった考えにも触れる機会となる。</li> <li>・班の振り返りでは、活動で感じたことはひとりひとりと違う。その様々な意見を交わしていくことで、互いの引き出しを増やしていくこととなる。</li> </ul>	<p>た</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・悪かった点のところは、フリートークで話しを広げていくために改善策まで書かなくなってもいいのでは。(しかし改善点までしっかり班で振り返る)</li> <li>・タイムテーブルを用意することでより企画班の企画内容が具体的にわかるようになった。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>現在の振り返りはフリートーク形式やタイムテーブルの持参など以前に比べよくなった点が多くある。一案として悪かった点は改善点まで書かない方がフリートークが深まるのではないか</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くのエピソードを聞いていきたい。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>振り返りは、互いに学ぶ姿勢を持って、目的に対する支援はどうだったかなど、ひとりひとりの声を大切にしながら次に生かされる振り返りをしていきたい。また多様な人との交流の場であり、自分な班のアピールの場として行きたい。</p>
<p>議題 2</p> <p><b><u>現在の振り返り形式に対してどう思うか</u></b></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フリートークのため様々な疑問を聞きやすくなっ</li> </ul>	<p>議題 3</p> <p><b><u>今後振り返りをどんな場にしていきたいか</u></b></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に対する支援がどうだったかは特に振り返っていた。またこの視点は他班さんからも多く意見ももらっていた。</li> <li>・次に生かされる振り返りをしたい。</li> <li>・様々な他班、他学年との交流の場にしていきたい。</li> <li>・自分の班の活動、いいところをアピールする場にしていきたい。</li> <li>・互いに学びたいと思う姿勢を持っていきたい。</li> <li>・物品の実物を持ってくる振り返りもやってみたい。</li> <li>・ひとりひとりの声が生きる振り返りにしたい。</li> </ul>	

( 10 )班 テーマ「振り返り会について」メンバー(トメハネ、まるこ、やよい、ぼん、もみじ、れっきー )

<p>議題 1</p> <p><b><u>振り返り会は何のためにあるのか</u></b></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動やりっぱなしではだめ→次に生かす</li> <li>・自分の気づけない点に気づける、新たな視点</li> <li>・周りの人に学んだことを伝えるため</li> <li>・1 つの子どもの行動に対して、いろんな捉え方や対応の仕方があるため、多くの価値観に触れるべきである。</li> <li>・引き出しがふえたり、発表を目標に頑張れる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他班に意見するのが難しい</li> <li>・なるべくしゃべりやすくかつ学びの深まる議題を出してほしい</li> <li>・全体に広げる方式良い</li> <li>個人→班→振り返り班→メイフレ全体へ</li> <li>・アットホームな空気、雑談もあっていい</li> <li>・1 対 1 で終わらない振り返り</li> <li>・定例会＝班の話し合いじゃないので、全体で振り返る機会を確保すべき</li> <li>・少人数で話す形式はどうか</li> <li>・他班の振り返り会聞いてどうするの？</li> <li>→ 1 つのテーマで議論したい</li> <li>→後の成長に繋がる</li> </ul>	
<p>まとめ</p> <p>活動内での子どもの詳細な行動を知るとともに、なぜ子どもがそのような行動をとった理由を話し合ったり、どのような支援が適切かを広い視野のもと学ぶことができるから</p> <p>議題 2</p> <p><b><u>振り返り会への要望・願望・こんな振り返り会にしたい！</u></b></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル化することは良いこと</li> <li>・三役さんの負担が多すぎる→事務的な仕事であればほかの人をお願いしてもよい</li> <li>・1 年生にとっては議題があったほうが楽</li> </ul> <p>→逆に議題がないほうが話しやすいと感じる学生も</p>	<p>まとめ</p> <p>それぞれの活動で起きた問題点 ( 普遍的な問題 ) について、自分だったらこの支援に賛成だ、自分はこちらの意見に賛成だ、という討論形式にした振り返り会はどうか</p>	

( 1 )班 テーマ「目的は何のためにあるのか」メンバー(まっち、まなてい、ぼん、あば、シベリア、りりい)

<p>議題 1</p> <p><u>活動におけるすべての支援を目的に沿わせるべきなのか</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・間接的にリンクするのであればいいと思う。</li> <li>・緊張をほぐすためなど活動をスムーズにさせるためならばいいと思う。</li> <li>・こじつけみたいなのはどうかと思う。入れたいのならば素直に入れればいいと思う。</li> <li>・全部がばらばらだと統一感がなくぶれるため目的は必要だと思う。</li> <li>・目的にとられすぎている。</li> <li>・メイフレは目的のために支援を学ぶ場である。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>「目的」は企画がぶれないための軸となるものであり、学生が支援を学ぶために重要なものである。しかし、「目的」ばかりにとられすぎず、子どもを第一に考え、楽しいを引き出せるような活動を企画しなければならぬ。これらをバランスよく考えることが大事である。</p> <p>議題 2</p> <p><u>単発の活動がプランナー化していることについて</u></p> <p>意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感動や達成感を学ばせることも大事であるが、それよりも楽しかったという気持ちを引き出していきたい。</li> <li>・単発の目的は「達成感」「愛着」「感動」など同じようなことが繰り返されている。</li> <li>・楽しかったが前提である。</li> <li>・「感動」「達成感」のような内面のものは見難い。</li> <li>・机上の空論になっているのでは。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>単発の目的の決めるとき机上の空論にならないように、1 回目の活動の目的を 2 回目の活動に活かせるように半期を通してのテーマを決めて活動をより深いものにします。</p>	
---	--	--

<p>議題 1</p> <p><u>目的は学生のためのものか、子どものためのものか</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学生のため：メイフレは子ども理解のためにあるので、その中で立てる目的も学生の子どもも理解のためのものである。</li><li>・学生のため：目的をもって活動を作ることと学びが得られるので、目的は学生の学びのためのものがある。</li><li>・子どものため：目的があることで活動がよりよくなるため、目的は結果的に子どものためになるものである。</li><li>・子どものため：目的があることで活動が立てやすくなり、より楽しい活動になる。そのため、目的は子どものためにもなる。</li></ul>	<p>い。目的は立てるが、大前提である「一人一人を楽しむませること」を重視しているため、目的に合わない子どもがいてもいい。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・全員が達成できるように目的の難易度を低めに設定すると、それが簡単に出来てしまう子はそれまでになってしまう。</li><li>・全員が達成することが大事なのではなく、いろいろな子のことを考えた目的にすることが大事である。</li><li>・目的はある程度の適切な難易度で立てるべき。全員が達成できなくともよく、その目的に向かって取り組めることが大事。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・目的の文章作りで言葉にこだわらる必要はあるのか？→言葉にすることで分かりやすくなり、イメージの細かいすり合わせが出来るので必要な作業である。</li></ul> <p>まとめ</p> <p>いろんな子どもに対応できる活動にするために、目的は段階的に立てると良い。また、目的を立てる際に重要なのはイメージを統一することであり、言葉を班員全員で選んで目的を文章化する作業を通して、イメージのすり合わせを行うことが大切である。</p>
<p>まとめ</p> <p>目的は学生の子ども理解に対する学びのためにあるものであるが、同時によりよい活動の基盤でもあるため、間接的に子どものためにもなるものである。</p> <p>議題 2</p> <p><u>参加した子ども全員が達成できるように目的を立てることに、意味はあるのか。</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・現在、ホール班ではその目的の立て方はしていない</li></ul>	<p>議題 3</p> <p><u>それでは、どのように目的を立てるべきか。</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・目的を段階的に立てることと、いろんな子どもに対応できる。</li><li>・見たい姿や目的のイメージを班員全員で統一することが重要。</li></ul>	<p>議題 4</p> <p><u>活動後の子どもの姿まで考慮した目的を立てることに意味はあるのか。</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・活動後の子どもの姿は見る事が出来ないの、目的の中に入れるのは難しい。</li><li>・目的は活動当日の姿までを考えて立てるべき。ただ、願いとしてその後の姿を考えておくことは出来る。</li><li>・活動後にどうなっってほしいかを考えることは、子ども理解のために大切なことである。</li></ul> <p>まとめ</p> <p>目的の文章は活動当日の子どもの姿までを考慮し</p>

<p>て立てるべきである。ただ、活動後に子どもにどうなっしてほしいか考えることは、活動をよりよくするためにも、子ども理解のためにも意味のあることであるため、活動後の子どもの姿を願いとしてイメージしておくことには意味がある。</p> <p>議題 5</p> <p><u>活動から考えるべきか、目的から考えるべきか。</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、ホール班では時間がないため活動から考えている。</li> <li>・見たい姿・目的と、活動内容とで行ったり来たりしながら同時進行で考えていくと決めやすい。</li> <li>・目的から考える方が、行き詰った時に目的に立ち返って考えられるので、活動がぶれにくくて良い。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>活動から考えた方が時間を短縮できるのは確かだが、目的から考える方が活動がぶれにくく、一貫性のある活動になる。目的のある程度考えてから活動内容を考え、活動内容の案がある程度考えたら目的を決める、というように、目的と活動内容を同時進行で考えると良い。</p>		
--	--	--



( 3 )班 テーマ「目的に対する支援について」メンバー(れっき一、さきほこ、ケロ、たんたん、しいちゃん、らぁや)

<p>議題 1</p> <p><u>企画を行う上で前提となる「楽しさ」の立ち位置</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援を考えると、目的に対する支援と「楽しさ」に対する支援を考えなければならぬのかと混乱することがある。</li> <li>・「楽しさ」が前提で、それに対する支援も行っていないなら、目的にも「楽しさ」に関する言葉を入れるべきでは？</li> <li>・「楽しくない活動」はまず作らない。</li> <li>・目的に明記はしないが、「楽しさ」を忘れずに企画していかなければならない。</li> <li>・「ずっと楽しい」を目指すのでもいいが、「苦しんで、頑張ったからこそ、最後に楽しい」やブランチー班だったから「会議はきつかったけど、本番は楽しかった」など、楽しさを持ってくるタイミングもいろいろある。</li> <li>・ホール班、単発班、ブランチー班それぞれで、「楽しさ」の位置づけは違う。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>「どのくらい『楽しさ』を重視するか」「どこに『楽しさ』の場面を持つてくるのか」を班の中で事前に決めて企画を行うことが大事。</p>	<p>議題 2</p> <p><u>目的の捉え方の違い</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班員で目的を共有したつもりでも、イメージの捉え方が出てきて、後で困ることがある。</li> <li>・ホール班では具体的な姿を出し合って、イメージの統一を行っている。</li> <li>・ホール班では「こういう姿を見たい」以外にも、活動後に「想定してなかったが、こういう姿も見られた」ということも出し合って、いろんな子どもの姿を広く受け入れ入れている。</li> <li>・単発班は割と1つの「この姿を見たい」というものを目指すため、その姿が見られなかった場合は、「目的が達成できなかった」と考えてしまいがちである。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>目的の捉え方は、具体的な子どもの姿を全員で共有することで、統一できるようにする。そして、常に目的を意識する。</p> <p>議題 3</p> <p><u>目的から支援へのつなげ方</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的を目指して支援を考えているはずなのに、気づいたら目的とずれているときがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的→支援→活動と考えていくべきなのに、活動の形や内容を先に決めてしまっていて支援がずれしてしまうのでは。</li> <li>・目的を常に目指して支援を考えることが大事。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>「目的→支援の大枠（活動の大枠ではない）→細かい支援」と考えていく。目的からそれないように常に目的を意識する。</p> <p>議題 4</p> <p><u>ホール班でグループ活動からはずれてしまう子</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「協力しよう」という目的の時、グループから外れてしまう子は、どうとらえるべき？ 目的にそぐわない？</li> <li>・外れた子はグループに連れ戻すべき？</li> <li>・外れる子が出るのはホールの特徴だから、個別対応をしていくのでいいのでは。</li> <li>・外れた子が、楽しめているのだったら、そのままでもいいと思う。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>班で、グループ活動をどの程度重視するのか（外れた子は必ず連れ戻すのか、できれば連れ戻すのか、そのまま個別対応をするのか）決めておく。ホール班は外れた子が出て悪いことではない。</p>
---	---	---

		<p>議題 5  <u>単発班やプランナー班のように、事前に来る子どもの情報が入っている場合</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホール班はだれが来るかわからないけど、来る子どもがわかっている場合はその情報をどう活かしているのか。</li> <li>・プランナー班は年間目標を決めるときには特に考えない（まだ子供が決まっていないので）。子どもが決まってから、子どもの様子を見ながら途中で年間目標の見直しを行っている。</li> <li>・単発も目的に活かすということはない（活動直前になるまで子どもは決まっていないため）。活かすとしたら、班分けや班付きの決め方のときなど。ただ、対象学年は学生が指定できるので、目的と絡めることはできる。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>単発は対象学年を決める際、班分け・班付きの決定の際に活かす。プランナー班は子どもの様子を見ながらそれに合わせて随時支援を考えていく。</p>
--	--	--

( 4 )班 テーマ「学生にとってメイフレの活動はどのような場であるべきか」メンバー(もな、ザック、ガイヤ、なつめ、みんな、もみじ、トメハネくん、ウーロン)

<p>議題 1</p> <p><u>メイフレで得たこと</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メイフレに入っていない人と比べると、成長を感じる (子どもとのかかわり方・人前で話すこと)</li> <li>・やりたくないこともやる忍耐力・社会勉強</li> <li>・人とのつながり。←メイフレというサークルで共通認識があるから深められた。</li> <li>・いろいろな角度で物事を見ることができるようになった。</li> <li>・子どもを見る目線がかわってきた。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>メイフレで得たものは、「人とのつながり」そしてそこから生まれる「自己の成長」である。</p>	<p>は学校でも家でも怒られてしまうのではないかと考え、学生は怒るのではなく寄り添うようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもは一人一人違うから、その子に合った支援のしかたがあるということ。</li> <li>・子どもはかわいいただけじゃなく、責任をもって関わる必要がある。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>子どもに対する見方が変わった。いろんな力が身についていた。</p>	<p>まとめ</p> <p>学生間のかかわりをもっと密にし、みんなが話し込める雰囲気をつくり、よりよい活動をつくりあげる。</p> <p>議題 4</p> <p><u>全フレについて</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メイフレは他班交流が少ないから、もったいなさを感じた。他大学は全員で一つの活動を作り上げていく方式だった。せっかく「プランナー」「ホール」「単発」の3つの形式で活動を行っているのだからお互いに交流を深めたほうがいい。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>他班交流を深めよう。</p> <p>→他班募集に積極的に参加。</p> <p>→他班の話し合い見学</p> <p>→何を話題にしてもよい「しゃべり場」を定例会前に設ける。</p>
<p>議題 2</p> <p><u>「子ども理解」について自己の成長点</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「できない子」の気持ちになって考えるようになった。</li> <li>・自分のした支援が子どもにとってすぐに効くわけではなく、時間をゆっくりにかけることも必要だということ。</li> <li>・子どもの背景を考えるようになった。←暴れる子</li> </ul>	<p>「成長できるメイフレ」「よりよいメイフレ」にするためににはどうすれば良いか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の振り返り会だけでなく、いろんな人といろんなことについて話したい。</li> <li>・エピソード面をもっとみんなと共有していきたい。</li> <li>・メイフレの船員どうしで意識の差がある。メイフレ以外の話もしてみたい。</li> <li>・学生間のかかわりをもっと増やして、居心地の良さをつくってほしい。</li> <li>・振り返り会をもう少し丁寧にやりたい。</li> <li>・学生の人数が多くて子どもと接する機会がすくない学生が多い。→レク依頼にもっと積極的にいってほしい</li> </ul>	

( 5 )班 テーマ「子どもにとってメイフレの活動はどのような場であるべきか」メンバー(ステイッチ、かんた、くらっち、miwa、よっちゃん)

<p><u>メイフレの活動に子どもは何を求め、またどんなメリットがあるのか</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や家ではできない非日常なことを楽しめる。</li> <li>・楽しい活動をする事で思い出に残る。</li> <li>・他の学年や他の学校の子と交流ができる。</li> <li>→コミュニケーション能力や強調性を身につける。</li> <li>・楽しい活動を通して知らず知らずのうちに自然と能力が身に付いたり、成長できたりする。</li> <li>・一人一人が尊重される。</li> <li>・経験があることが自信につながる。</li> <li>・学問ではない、体験学習ができる。</li> <li>・自己主張ができる。</li> </ul> <p>学校や家ではできない非日常な楽しい活動の中で学生や他の子どもとの関わりを通してさまざまな能力を身につけたり、発展させたり、思い出ができたることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが楽しみながら学べる場</li> <li>・大人でも子どもでもない学生だからこそ築ける関係</li> </ul> <p><b>楽しいだけでなく、他者との関わりの中で自然と何かプラスになるものを身につけられる場。</b></p> <p><u>何を重視して活動を作っていくべきか</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どれも一番大事かではなく、どれも大切なことである。また、どれも大事かを決めてしまうと支援や活動に偏りがでてきてしまう。</li> <li>・どれも重視するか決めることで支援に一貫性が出てくる。</li> <li>・重視するものは班によって変わってくるのではない。いろいろな子が来るホールはさまざまな支援が必要になってくるし、プランナーは年間を通した支援が必要なので一貫性があった方がよい。</li> </ul> <p><b>班によって重視していくものは変わっていく</b></p>	<p>から考える必要がある。そのため子どもがどんな行動や様子になるのか、さまざまな姿を想定する必要がある。1人で考えるのではなく、たくさんの人と意見を交えることで様々な姿を想定することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらからではなく、達成したい目標に至る過程の中に段階的に目標を設定し、それを達成していくことが大切である。</li> </ul> <p><b>大きな目標の中に段階的な小さな目標を決めておくことでどちらの側面からも判断できる。</b></p> <p><u>ただ楽しむことを目的として来ている子に学生の目的に沿った支援は必要なのか</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんなことが起きてもその子にとって、経験を積んでいるということに代わりはない。</li> <li>→ 失敗したことやグループの人と上手くいかなかったことも経験となり、何が悪かったのかなど振り返ることで次につなげることができる。</li> </ul>
<p><u>公民館の視点からでは、メイフレの活動はどのような場であることが求められているか。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者と関わることで楽しいだけでなく、何かを学べる場。</li> <li>・公民館は生涯学習の場であるから、生きていくうえでプラスになる何かを得られるような場。</li> </ul>	<p><u>目的は達成/未達成と段階どちらで判断すべきか</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班によって変わってくるもの</li> <li>→プランナーは年間目標と照らし合わせ、今どの段階なのか、次はどこを目指すのか考える必要がある。</li> <li>→ホール、単発は一日の活動。子どもの姿や様子</li> </ul>	<p><b>無理に学生の目的に沿わせようとするのではなく、その経験が子どもにとって、次の機会でプラスに繋がるような支援をしていくことが大切である。</b></p>

( 6 )班 テーマ「子どもたちにとって、メイフレの活動はどのような場であるべきか」メンバー(オシム、八木、ゆみやん、まっしあん、いろは、コカド、まる子)

<p>議題 1</p> <p><u>子どもの中での目的について</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもにも目的意識持たせたい。「何やってるんだろう?」と思わせたくない。</li> <li>・ワークシートやアンケート等、学生にとつては目的に向けた意図があるが、子どもは書くことが嫌い。</li> <li>・アンケートをとると、姿には現れなかった子どもの気持ちが見えることもある。</li> <li>・学生の意図を子どもは知らず、学生のエゴである。</li> <li>・〇〇を通して楽しんでほしい、という考えで目的を考えているから、楽しいことがまず前提。</li> <li>・班によっても考え方は違うかもしれない。</li> <li>・子どもは“楽しい”しか活動に求めていないと思う。いかに学生の意図を悟れずに楽しませられるかが支援として大切なことである。</li> <li>・子どもが今していることについて意義をわかっているかないと。子どもにとって不自然ではないか、を考えていくべきである。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>子どもにとって不自然な流れで活動が進むことになっていないか、企画段階から意識するべきである。</p>	<p>まず、子どもに「なぜこれをしなくてはいけないのか?」と思わせないことが一番だが、学生が今からすることについて理由を説明できるようにしておくことも大切である。</p> <p>議題 2</p> <p><u>活動以外を求めてきている子たちへの対応</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動をせっかく考えているから、参加してほしいという思いと、来てくれるだけで嬉しい、という思いとで、葛藤している。</li> <li>・単に活動が楽しくないのでは、という疑いも必要。</li> <li>・なぜ入ってくれなかったのか、考えることと、入っても入らないという気持ちを持つておくことは大切。</li> <li>・活動に入りたがらない子が必ず出る、という先入観は良くない。</li> <li>・個別対応を考えておく必要はある。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>活動に入りたがらない子が出てしまうという先入観は良くないが、前もって個別対応等の準備をしておく必要はある。</p>	<p>大前提としては、活動を魅力的にすることだ、という意識を忘れない。</p> <p>議題 3</p> <p><u>学生から見たメイフレの活動</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メイフレに対してみんながどう考えているか気になる。</li> <li>・子どもの経験の場として捉えている。プランナーなら人の前に立つことや成長、単発は協力や達成感、ホールは子どもや学生と遊ぶ、等の経験の場を学生が提供している、と考えている。</li> <li>・役を経験したか、によっても変わるのではないか。役を持つと責任がでてる。</li> <li>・どうとらえているかは、温度差や価値観による違いはもちろらんあるが、結局は仲の良さが大切なのではないか。仲が良ければ、助けようとするし、理解も生まれる。</li> <li>・いろんな考え、意見をまずは知ることが大切。</li> <li>・一方の考え方が主張しすぎてもいけない。</li> </ul>
--	--	---



<p>まとめ</p> <p>メイフレをどのような場として捉えているかは、人のメイフレに対しての熱量や価値観などによっても変わってくる。まずは、いろんな考え方の人がいることを知ることや、学生間の仲を深めることが大切である。</p>		
--	--	--

( 7 )班 テーマ「子ども理解とは何か」メンバー(ひとり、レトロ、ペコ、ひらっち、まりん、ふっしあん)

<p>議題 1</p> <p><u>子ども理解とは何か</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(子どもの) 学年差や TPO も踏まえたいうえで、子どもが一番楽しいと思ってくれる活動を作るためのもの。</li> <li>・ひとりひとりものの感じ方は違うが、活動に参加してくれただの子どもも楽しいと思ってくれる活動を生むためのもの。</li> <li>・自分のことを知る場。</li> <li>・子どもの何かが理解できればそれは子どもも理解。</li> <li>・何のためにあるのかは疑問である。</li> <li>・子どもを理解することは、他者を理解することに通ずるものがある。</li> <li>・既存の知識にとらわれすぎることなく、可能性の先まで考えることが子どもも理解。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>子ども理解についてひとりひとりの持つ具体的なイメージは異なっているが、より深く子どもについて理解を進めることが子どもも理解なのではないか、という意見は一致している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとりひとりが4年間かけて答えを出していくもの。</li> <li>・統一するのは難しい。</li> <li>・ひとつのサークルとして掲げているものだから、統一しておいた方が良いのでは？</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>解を出すことの必要性を感じる反面、抽象的な言葉のイメージの統一を図るのは現実問題として厳しく感じる。</p> <p>議題 3</p> <p><u>具体的に、子ども理解できた！と感じる場面は？</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・用意していた支援が活動で機能した時</li> <li>・逆に、予想外のことが起きた時には、「子ども理解が足りていなかった」と感じる。</li> <li>・できた！と感じる場面はあまりない。ただ、子どもも理解しようとしている、と感じることはよくある。</li> <li>・物品を作っているときに感じる。</li> <li>・メイフレの伝統として、当然のように危機管理やタイムテーブルの作成を行っているが、もとをたどればそれは子どもも理解が進み、学生がより安全な活動を子どもたちへ、と願った結果であると思う。</li> </ul>	<p>まとめ</p> <p>これもまた、ひとりひとり異なっているが、子どものことがよく理解できている、と実感できる準備や思考を自らが行うことができた時に感じることが多い。</p> <p>議題 4</p> <p><u>子ども理解するための手段・方法とは</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供との関わりの中に自分を置くこと。裏方である際にも、自分から関わりに行くようにしている。</li> <li>・他班募集や外部依頼などにも積極的に赴く。</li> <li>・思考と試行。</li> <li>・他人や、他の班の人の話をよく聞くこと。</li> <li>・自分の小さいころの話を親に聞いてみる。</li> <li>・目的を立てて、それに対する支援や見られる子どもの姿を考えること。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>色んな場所で、色んな子どもと関わるのが一番の方法であることに違いはないが、人から話を聞いたり、挑戦的に試行を行っていったりすることで、思わぬ子ども理解を得ることもある。何事にも積極的に取り組んでいくことが大切である。</p>
<p>議題 2</p> <p><u>子ども理解とは、についての解は出すべき？</u></p> <p>意見</p>		

( 8 )班 テーマ「子ども理解とは何か」メンバー(だーやま、ゆに、かわさき、ともぞう、やよい )

<p><b>1. 子ども理解とは何か</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とても抽象的な言葉である子ども理解は、子どもが学生の支援に対してどのような反応をするのか判断していく必要がある。</li> <li>・子どもの内面を知るのは難しいので、子どもの表情や行動から読み取っていくことが子ども理解である。</li> <li>・なるべく子供に寄り添って、適切な声かけをしていく必要がある。</li> <li>・「子ども理解」自体が何かを考えるのはとても難しい。</li> <li>・子ども理解にはゴールがない。多様な子がいる中で子供に寄り添って考える必要がある。</li> <li>・活動をしていく中で、学生がどのような支援をしたら、どのような反応があったのかというエピソードを学生間で共有していく必要がある。</li> <li>・ある子どもにした支援を他の子にもしてみても、その子がどのような反応をするのかを見してみる。これは、うまくいかないことが多い。なぜなら、一人一人の背景が違ってくるからである。学生は、子どもの背景を考え支援をする能力を養っていく必要がある。</li> <li>・子どもの良いところをつかんで、認めてあげることが子ども理解である。</li> </ul>	<p>子どもの背景を考えながら、良い所をつかんで認めあげることが子ども理解である。手段として、子どもに寄り添い、子どもの表情や行動から子どもの内面を読み取っていく必要がある。</p> <p><b>2.子ども理解を考えるうえで、参考になるエピソードはないか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・立ち入り禁止と書いてある所に積極的に入ろうとする子どもは、「なぜ入ろうとするのか」を考える必要がある。立ち入り禁止のところに入って、注意するの必要な場合はあるが、このサークルでは、「なぜ」を考えるのが重要である。</li> <li>・活動の目的設定においても、子ども理解につながるかと考える。例えば、企画段階で活動の目的を「協力して楽しむ」と設定する。この目的で活動を行い、最後に子どもに今回の活動はどうだったか聞いたとき、子どもは「楽しかった」と言った。このように、子どもからは「協力して楽しかった」という言葉は返ってこない。子どもの楽しいにどんな意味が含まれているのかも判断していく必要がある。</li> <li>・各班にそれぞれ特性があり、子ども理解のとらえ方にも違いがあるのではないか。</li> <li>・全体で子ども理解とは何なのか、統一してみるのも面白い。</li> </ul>	<p>いろいろなエピソードはあるが、子どもの行動に「なぜ」という疑問を持って向き合う必要がある。</p>
---	--	--

<p>1. 議題 子ども同士の間 (意見)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・子どもの共通点を伝える</li><li>・協力→はじめに会った子同士でどこまで求めるか</li><li>・仲良し→同じチーム、名前を呼び合う、一緒に喜び合ったり</li><li>・活動やゲームを工夫する</li><li>・みんなできできないゲーム</li><li>・環境づくりを考える</li><li>・プランナーと単発・ホールでアプローチの仕方が違う</li><li>・男女→学生が間をつなぐ</li><li>・話すことが苦手な子には、気軽に参加できるゲームで緊張をほぐす</li></ul> <p>(まとめ)</p> <p>→はじめに会った子同士や男女だと距離がでやすいので、学生が共通の話題で話をしてみたいゲームをして巻き込んでいく。目的によって活動内容や環境づくりを工夫する。</p>	<p>(まとめ)</p> <p>→自分が接しやすいぐらいの距離感をとれば上限はない。ただ、仲良くなり子どもたちが注意を聞かなくなったら場合もあり得るため対応がかんがえておく。</p> <p>3. 議題 意見を言えない子 (反応がない子のそばにいないことしかできない) (意見)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・待つ事は大事</li><li>・その子が心を開いてくれる学生、子どもを探す</li><li>・話すのが苦手→紙に書く、考える時間を与える</li><li>・イメージ図を書くとき→自分のセンスを問われているように感じて圧迫感がある</li><li>・話すことを強要せず、学生から提案したりする</li></ul> <p>(まとめ)</p> <p>→無理矢理話そうとせず待つ、反応がなかったら学生から提案する。</p> <p>4. 議題 活動に入りたがらない子 (意見)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・活動の流れと一緒に確認しながら、入ってくれるのを待つ</li><li>・子どもは遊びにきているため、発表したり、感想を書いたりすることは苦痛なのではないか</li><li>・皆がやっていること見させる</li><li>・活動にきてくれた時間を無駄にさせたくないためできるだけ楽しめるような空間づくりをしていく</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・単発→最初から班になじめないとその後の活動に入りにくい</li><li>・ホール→途中参加しやすい、小さなスペースが用意してある。</li><li>・目的とは違っても臨機応変な対応をする(まとめ)</li><li>→飽きた子を活動に無理に戻そうとするのではなく、逃げ場を作っておいたり、あきないような活動内容をいれたりする。協力するや、かかわり合うなどの目的の時でも臨機応変に対応していく</li></ul> <p>5. 子どもに対して活動中に何かすべきなのか(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・企画がきちんとしていれば子どもたちだけで活動が進んでいくのではないか</li><li>・理想であるが、入り込めない子もいると思うのでその時に学生の存在は必要だと思う</li><li>・子どもにこうさせないといけないとおもってしまう</li></ul> <p>(まとめ)</p> <p>→子どもたちだけで活動を進めていくことは理想的であるが、学生が支援が必要な子でも楽しめるようにすることが必要だと思う。</p>
---	---	--

<p>議題 1</p> <p><u>子どもに先生と呼ばれた。先生として接するべきなのか、位置づけが分らない。</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レクなどで名前を覚えてもらうようにし、先生と呼ばれないように工夫する。</li> <li>・先生と友達の間隔的な位置。フレンドリーに接しつつ、叱る時は先生のような姿勢というように使い分ける。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>先生でも友達でもないという独特の距離感を有効に活用し、子どもとの距離を縮めることができるのがメイクフレンズの活動である。</p> <p>時と場合によって、友達のように接したり、先生のような姿勢で対応したりと使い分けられるべきである。</p> <p>議題 2</p> <p><u>敬語を使う子どもについて</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の緊張が伝わるから、敬語を使うのかもしれない。</li> <li>・仲良くなったり、慣れたりすれば敬語は使わなくなるかもしれない。</li> <li>・年上の人に敬語を使う習慣が身についている子に無理に敬語を使わせなくする必要はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その子にとって使いやすい言葉を使ってほしい。</li> <li>・最初は子どもとの距離を縮め、仲良くなったら一定の距離を置くように接する。</li> <li>・「敬語を使わなくていい」ということを伝え、その後は子どもに任せる。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>無理に敬語を使わせなくするのではなく、子どもが使いやすい言葉を使ってほしい。しかし、できるだけ、子どもとの距離を縮め、自然と敬語を使わなくなるような雰囲気を作っていきたい。</p> <p>議題 3</p> <p><u>甘えてくる子はどこまでが許容範囲か</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指示が通らなくなってしまうのを防ぐため、必要以上に甘えさせるべきではない。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>時と場合で使い分ける。(話を聞くときは甘えさせないなど)</p> <p>議題 4</p> <p><u>特別支援の必要な子について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目の届く範囲で自由にさせる。</li> <li>・普通の子と変わらない接し方をする。</li> <li>・「ダメなことはダメ」と注意する。</li> </ul>	<p>まとめ</p> <p>気を配りつつ、えこひいきをしたり特別扱いをしたりせずに接する。</p> <p>議題 5</p> <p><u>反応を示さない子について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・反応を示さなくても楽しんでる場合もある</li> <li>・無理にかまひすぎないようにするべき。</li> <li>・無視すると、その子が活動にきた意味がなくなってしまう。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>反応を示さなくても、放置するのではなく、粘り強く子どもと向き合い、決して放置しない。</p>
--	--	---



## 合同分科会の事後アンケート

○今回分科会で、話したかったこと・やりたかったことは達成できましたか？

- 意見を交換できたこと、より多くの意見に触れることができてよかった。
- できました。
- 自分の考えを話すことで、考えを整理でき、再構築できた。
- 日頃なかなか話をしない相手と話すことができ、いろいろな引き出しが増えた。
- 1年間の活動の中で考えていたことや悩んでいたことについていろんな視点からの意見をたくさんもらえてよかった。
- 1年生にメイフレのことについて話を聞くことができ、悩んでいることは一緒だと感じた。下級生とじっくり話すいい機会となった。
- 話すので精一杯でした。
- 真剣に話せたことで自身の意見にみがきがかかった。
- 疑問に思っていたことや迷っていたことが、ある程度解決できました。また、一人一人の意識の違いをよく理解することが大切だと思いました。
- 後輩が“振り返り会”についてどう思っているのか知ることができたし、新しいアイデアにも触れることができました。話したいことかどうかは置いておいて、良い機会で、これからどんなふうに変わっていくのかが楽しみです。
- 「楽しさ」の位置づけについてすっきりしました。
- 振り返り会では言いたいことを言えるように小さい班に分かれて話すのだということがわかりました。
- 1人1人に対する支援が重要だと思いました。
- 振り返り会をする意味、振り返りの場の理想を話し合うことができた。振り返り会が楽しみになりました。
- 振り返り会について2年生だけで話すことが多かったため、他学年の意見を聞けて良かった。
- 目的と支援のつながりについてあまり考えることがなかったが、このつながりがとても大切であるということを知れた。
- できた。活動を企画する中で、支援が先行してしまうのではなく、活動の大枠を決めた上で、目的から支援を考えていくという過程を確認することができたから。
- 今困っていることも知れたし、今後のメイフレや個人のためになることも話せたので良かったです。
- たくさんフォローしていただいて、話せました。本来話すべきことが話せなかったかもしれないと、反省しています。
- 第1部では、振り返り会の意義や方法について先輩方の意見が聞けました。第2部では、それぞれがどんなことで困っていて、それにどう対処するのかをみんなで話せました。自分の予想よりたくさんの収穫があったので、達成できたと思います。
- いろんな班の下級生と話ができてよかった。
- 第1部では話しつくせました。第2部では話のネタが多すぎて不完全燃焼がありましたが、意義のある話し合いができたと思います。
- 疑問に思っていた、振り返り会のことも聞けたので、達成できたと思います。

- ・第1部では、振り返り会についてたくさん話せました。第2部では、「子どもに対する接し方」について深く考えることができました。
- ・達成できました。特に、4年生の先輩の意見が聞けたのは本当に大きかったです。
- ・“子ども理解”という、とっても大切なのに、曖昧な言葉について、メイフレの人たちの意見を聞くことができてよかったです。
- ・いろんな学年、班など普段あまり関わったことがない人たちと同じ議題で話し合えたのが、とても貴重でした。逆に、聞いてもらえたのもうれしかったです。
- ・濃い話し合いができました。
- ・他班さんや上級生の話を聞けて、これからの企画・活動の視点を得ることができた。
- ・1、2年生が「子ども理解」について、どんな考えやイメージを持っているのか知りたかったので、話せてよかったです。
- ・もともと話したかったことがあまり出てこなかったのですが、話しているうちに疑問が出てきて、それについて話し合えたのでよかったです。
- ・目的を考えるとときに出てくる、“見たい姿”についての疑問など、聞きたかったことを他班の先輩にきくことができた。具体的な答えは出なかったが、話し合うときのプロセスや、いろんな知らなかったことを解明するいい機会になった。
- ・ずっと気になっていた目的のことや振り返りのことについて深く話し合えたので、達成できました。また、司会者が話し合う内容を細かく設定してくれていたのも、幅広く話し合うことができました。
- ・“当たり前”について話すことができ、新たな視点が生まれた。
- ・あと少し1年生の考えや気持ちを聞きたかった。
- ・振り返り会を軽視しがちだと感じていたので話すことができてよかった。
- ・大まかには話し合えたかなと思います。ただ、広く浅く話した感じがして核心まではなせなかったかなと思います。
- ・達成できなかった。2部で話し合ったことはあまり私が話し合いたかったことではなかったと思いました。司会の方がふってくださった話題も班の議題と離れていたように感じます。

#### ○今回の分科会の中で、どのような高め合いが見られましたか？

- ・自分では考えつかないような意見を聞くことができた。人の意見を聞くことで自分の考えを見直すきっかけになった。
- ・1年生にとっては新しい意見に触れるいい機会だったと思います。
- ・凝り固まっていた自分の考えを改めてほぐすことができました。後輩のみんなから学ぶことがたくさんあって、4年生としてこれまでのメイフレのことをふりかえれた気がします。
- ・どうすれば今のメイフレがより良くなるのかを考えられた気がします。
- ・一人一人の背景やメイフレを見ている角度が違って、様々な角度、方向から視野を得ることができ、互いに自分に足りないことを補えたという点で高め合えたかなと思います。
- ・高め合うことは意識を高く持っておかないと難しいのかなと感じました。
- ・一方的に話すばかりでなかなか聞けなかったと反省しています。
- ・他学年の人たちの意見を聞くことができ、とても面白かったです。同じ悩みを共有できる仲間は大切です。

- 疑問に思っていたことをぶつけ合って納得できるように最適解を見つけるところまでは難しかったですが、いろいろな意見に、みんなのモチベーションが上がっていた気がします。
- 子どもにとってのメイフレ、学生にとってのメイフレの考え方について高められたと思う。
- 各班それぞれの良さを確認し、実感することができた。
- 班によって実態が異なるため、他班の様子を知ることができてよかった。
- 1部では振り返り会の意義を見直したことで振り返り会に対する意識の高め合いが見られたと思います。2部では、みんなの悩みに共感したり、改善策を考えたりすることを通して、一人一人の子ども理解の質を高め合える場になったと思います。
- 普段話し合いではあまり話せないような議題などについて話すことができて、よかった。結局答えを導き出せたわけではないが、自分以外の考え方や捉え方を知れて、同じ疑問を持っている人がいるということを知れてよかった。
- 出た意見を踏まえて考えることや、自分はこう思うと言ったことから、議題が深まっていくように感じました。出た意見を「これから」に活かすことが重要だと思うので、活かしていきたいと思います。
- 話し合ったことが直接活きてくるかはわからないけど、今までなんとなくしか考えたことがなかったところに改めて視線を向けて考えるきっかけを作れたことは有意義だったと思う。“活動”だけじゃなくて、“メイフレ”に視野を広げることができた。
- “ふりかえり”という場の重要性について改めて考えるいい機会となった。
- 各個人の意見をぶつけ合って、各々が持っている“姿勢”を共有することができ、メイフレに対する“意識”“情熱”の高め合いができたと思います。

## ○感想や要望

- 有意義な時間でした。分科会を企画・進行してくださってありがとうございました。
- 分科会委員のみなさんお疲れ様でした。
- 結論がないであろう議題はゴールが見えづらく、難しかった。
- 自分の考えをもっとしっかり持とうと思った。
- 楽しかったです。
- 司会が楽しく話せる雰囲気作りをしてくれて、とても話しやすかった。
- 時間設定がちょうどよかった。
- 少し時間が長すぎると感じた。
- もっとたくさん話したかった。
- とても緊張していたが、やってみると楽しかった。
- アンケートの項目をもう少しわかりやすく具体的にした方が、書きやすく、次に活かせるものになると思います。
- グループに盛り上げ役がいると助かる。上級生の意見が聞けて良かった。
- 最初にアイスブレイクなどをやると、雰囲気がほぐれて話しやすくなるかも。
- みんなの意見が似通っていたため、話を深めることが難しかった。

### Ⅲ. 教育実践総合センター教員からのメッセージ







## 子どもと寄り添う姿勢、大人に謙虚な姿勢

教育実践総合センター 教授 中山 玄 三

平成9年度にスタートしたフレンドシップ事業も、19回目のシンポジウムを迎えました。不易の部分は、子どもとかかわる活動を通して、子どもの行動やその背後にある気持ちを理解し、実践的指導力の基礎を培うというねらいです。平成27年度のシンポジウムでも、この不易の部分は大切に継承されていました。学生が企画を持ちこむ、いわゆる単発型の1日の活動では、子どもどうして感情を共有すること、子どもがみんなで感動を味わうことが、共通のねらいとなっていました。子どもが自分自身の感情を表に表す時の様々な表情、言葉、行動が、具体的な姿として見て取ることができていました。子どもが企画することを学生がサポートする、いわゆる継続型のプランナーの活動では、子どもどうしが協力しつながることとまわりの人のことを考えることが、年間のねらいとなっていました。子どもどうしの思いやりのある行動とその成長が具体的な姿として見て取ることができていました。

その一方、例えば、思いやりの行動は見れたが、まわりの人のことを考える気持ちを理解することが難しかったという報告がありました。子どもは、本来、素直で純粋で、自己の欲求を最大限に表現したいと思っている存在です。しかし、まわりの大人から見ると、子どもの行動からその内面にある気持ちを察することは、必ずしも容易なことではないというのも事実です。子ども理解はまわりの大人にとって永遠の課題でもあるわけです。ただ一つ言えることは、学生の定めた目的・計画だけに頼り過ぎず、子どもの視点・目線に立つことが大切だと思います。そういう意味で、今年度のメイクフレンズの活動では、学生が直接子どもをコントロールするというスタンスから一歩引いた寄り添いの姿勢（for you から with you への one down position）が多く見て取れました。寄り添う力・聞く力・共感する力をさらに磨いていっていただきたいものです。

最後に、「視野を広げる」という今年度の方針に関連して、3つの“お”のお話をします。1つ目は“お願い”です。学生は公民館等の場を“お借り”して子どもとかかわらせていただいているという“お願い”する立場にあります。2つ目は“お礼”です。公民館等で子どもとかかわらせていただいた経験は貴重であり、言葉通り、“有り難い”ことです。3つ目は“お詫び”です。公民館の社会教育主事の先生方には、いろいろな意味で表裏にわたってご支援をいただいた“御陰様”で、大きなトラブルもなく活動を終えることができたということです。学生だけでは不十分・不完全な部分が多々あり、いろいろとご心配・ご迷惑をおかけしたことに対する“御免なさい”の気持ちを忘れないでください。総じて、学生の中だけで閉じた狭い世界から、学生を取り巻く様々な人々とのインターフェイスにまで、視野を広げて、謙虚な姿勢を持ち続けていただきたいものです。



## 実況中継：ワクワク・シンポジウム（2015年度）

教育実践総合センター シニア教授 吉 田 道 雄

皆さん、こんにちは。私は2年前に定年で退職しました。その後はシニア教授という立場で仕事を続けさせていただいています。そんなわけで、私としては皆さんの活動と活躍を少し引いたところで関わりを持たせていただきます。

今日はシンポジウムに参加するために、席に座って開始時間を待っていたときに、ふと、あるアイデアが浮かびました。「そうだ、今年はシンポジウムの“実況中継”をしよう」という名案です。そうこうしているうちに、シンポジウムがスタートしました。

まずは船長の高田知佳さんのご挨拶です。名前を呼ばれたときの「発表」楽しみにになります。

スターターは「五福ホール班」の「居場所」づくりの鮫島優美子さんと青崎勇太朗さんです。いま「居場所」は子どもにとって欠かせないものになっています。そして、それは高齢者を含めて、すべての日本人に求められているのです。所期の目的どおり、しっかり「リピーター」を獲得できて良かったですね。それが大いなる「活動の評価」であることは言うまでもありません！

次は「中央プランナー班」です。反後克彬さんと狭間葵さんです。キーワードは「仲良し」と「思いやり」ですが、これを「実体験」出来るような舞台を周到に準備していることが十二分に伝わってきました。「会議のコツ」が「継続」することで自然に身についたのですね。もちろん『『思いやり』が本物になったかどうかはわからない』との自己評価も大事ですね。人生は“Never Ending Challenge”なのです！

さて、三番目は「託麻単発班」の藤本りえさんと平田彩さんです。「夢中」＋「試行錯誤」⇒「感動」こそが、「ピタゴラスのマジック」でしょう。とくに「個人」ではなく「皆の智慧を活かす」ことの重要性を体感したこともすばらしい成果でした。「はじめてのおかいもの」は、公民館におけるフレンドシップ事業の原点です。これからも、「はじめて」の気持ちで「はじめてのおかいもの」を続けていきましょう！

最後は「大江単発班」です。いま時間は14時30分55秒、永渕敦弥さんと三原敬子さんの発表がはじまりました。「感動」にこだわりましたね。手作り楽器という見事なアイデアに、いきなり「感動」しました。それで本物の音楽が演奏できるのですから、これまた大感動ではありませんか。その中でも子どもたちをしっかりと観察して反省点も押さえていました。これは「感動」の足し算ではなく、「感動」の掛け算だったはずです！

「フレンドシップ事業：メイクフレンズ」は永遠です！

## 平成27年度フレンドシップ事業シンポジウムに参加して思うこと

教育実践センター 特任教授 長 濱 茂 喜

シンポジウムに参加してまず思うことは、メイクフレンズの活動はすばらしいということです。活動の実施報告では、「活動全体」の報告の後、「五福ホール班」「中央プランナー班」「託麻単発班」「大江単発班」の4つの班の報告がありました。緻密な計画、準備のもと、子ども達が生き生きと活動している様子が伺われ、メイクフレンズの活動のすばらしさが十分に伝わってきました。特に、「試行錯誤」と「感動」という言葉が印象に残りました。また、代表の人も、活動のポイントをプレゼンの映像等でしっかり押さえ、堂々と発表してくれました。

私はこの1年、毎月一度の定例会へ出席し、4つの公民館での活動を実際に参観していましたので、それと重ね合わせながら発表を聞いていました。子ども達の生き生きとした活動の裏には、メイクフレンズの学生の皆さんの事前の計画、準備等並々ならぬ努力があるということも再認識できたところです。

学生の皆さんにとっても、メイクフレンズの活動を通して得たものは多くあったと思っています。「子ども理解」はもとより、「事前計画、準備の大切さ」「仲間と協働して取り組むことの大切さ」「振り返りの大切さ」等、たくさんの学びがあったと思っています。実際体験しないと分からないこと、身につかない事も多くあります。正に、学生の皆さんはメイクフレンズの活動を通してそのようなたくさんのことを学んだということになります。本年度の方針である「視野を広げる」ということも、少しは達成できたのではないのでしょうか。このことは将来必ずや役立つものと思っています。

また、このシンポジウムには、教育学部の先生方はもちろん、熊本県教育庁社会教育課長様はじめ県、市から多くの関係者の方々も出席をされていました。そのような方たちにも、メイクフレンズの活動のすばらしさを十分認識して頂いたのではないのでしょうか。

最後に、メイクフレンズのよき伝統が引き継がれ、活動が益々充実していくことを願っています。

## メイクフレンズ活動を支えているもの

教育実践総合センター 客員教授 杉 原 哲 郎

平成27年度フレンドシップ事業シンポジウム大成功、おめでとうございます。

メイクフレンズ活動を振り返り、私が一番驚き感動したことは活動内容の質の高さと皆さんの子ども理解に対する意識の高さです。なぜ、ここまでできるのか不思議でたまりませんでした。その要因を大きく6点、皆さんが活動する姿に見つけることができました。

1点目は、計画・事前の話合い段階に当日の子どもの動きをシュミレーションして活動内容やメイクフレンズの動きを組立てておられることです。毎週の定例会で熱心に討議し、活動内容や子どもの動きへこだわる皆さんの姿から毎週の定例会が大切な学びの場であることがよく分かりました。2点目に、どの子どもたちも安心して楽しく参加できる配慮がなされていることです。低学年の子どもたちの参加が多いので説明は絵やカード・劇など視覚に訴える工夫に加え、ゆっくり分かりやすく話すことを心がけておられました。また、コミュニケーションをとるのが苦手な子どもへは学生が必ずマン・ツーマンで寄り添い、その子の思い・願いを大切に支援がなされています。今、学校で求められている特別支援教育の視点を大切に子ども理解ができていることに感心しました。3点目に活動内容にストーリー性があることです。導入でワクワク感、中心活動では試行錯誤しながらの追求感、活動終わりは、できたことを喜ぶ満足感と達成感。そんな子供の気持ちをイメージしたストーリーを工夫した活動が組まれており、すばらしい授業を見ているようでした。4点目に皆さんが、活動の楽しさを追求するだけでなく、子どもにどんな力をつけたいのか、どんなことを学ばせたいのかを活動の基本に据えているところです。だから活動が知的であり内容の質が高いのです。5点目に活動後の振り返りを大切にしていることです。視野を広げることがメイクフレンズの方針に掲げられていましたが、活動を客観的に振り返ることは視野を広げることにつながります。毎回活動後はよく頑張ったという自己満足に終わらず活動の録画を見て、目的とした子どもの姿が見られたのか、自分たちの関わりのどこが課題なのか等を謙虚に振り返ることで皆さんの視野を広げ、次の活動の質を高めているのです。6点目にチームワークの良さです。皆さんの活動を見させていただき、一人として無駄な動き、気を抜いた動きをする人がいない。各自が役割を理解し準備から本番まで子どもたち一人一人の活動を全員で保障する「チーム・メイクフレンズ」の協同体制が伝統的に築き上げられていると感じました。

来年度は、皆さんがどんな活動を子どもたちのために計画・運営してくれるのだろうかと思うと胸が躍ります。自分はメイクフレンズを支える秘密をもっともっと皆さんの姿から発見していけることを楽しみにしています。

2015（平成27）年度 熊本大学教育学部  
フレンドシップ事業実施・成果報告書

2016（平成28）年 3 月31日

編集・発行 熊本大学教育学部附属教育実践総合センター  
〒860-0081 熊本市中央区京町本丁 5 番12号  
TEL (096) 325-3282 FAX (096) 352-3468

印 刷 かもめ印刷